



2000年 新たな時代へ

ありか  
幸せの在処

2000-2(87)

KUNIZUKURI TO KENSHU

## 国づくりの研修

【人物ネットワーク③】  
木村尚三郎／「幸せの在処を求めて」／「これからの土木教育のあり方」【建設産業の行方と在り方】「漂流都市をどう生きるか」【川を蘇らせよう 世界の動き】「二十一世紀社会への視点」【幸せの在処としての農山村】  
／【洋式灯台に見る近代化遺産・明治期灯台が有する価値の評価】  
／【土と木・土地の色、風土の記憶】／【海遊館・大阪市】／【進取の気運が育てた山里のロマン・愛知県足助町】  
／【ここに人あり・まちづくりと人】  
／【人材育成企業訪問・工学研究社】  
／【二十一世紀の伊能忠敬を目指したい】  
／【平成十一年版建設白書より】

洋式灯台に見る近代化遺産④	38
明治期灯台が有する価値の評価 澤村勇雄(海上保安庁灯台部工務課主任灯台技術官)	
土と木⑦	44
土地の色、風土の記憶 葛西紀巳子(アメニティー&カラープランナー)	
施設ウォッチング⑥	36
水族館を超えた「水族館」 ～天保山ハーバービレッジ・海遊館(大阪市)～	
REPORT	46
進取の気運が育てた山里のロマン ～愛知県・ <sup>あまけ</sup> 足助町～	
ここに人あり まちづくりと人④	60
日本大正村と澤田正春さん、村民の人たち 昇 秀樹(名城大学教授)	
人材育成企業訪問	52
工学研究社 技術系通信教育の老舗 登録講師の派遣、研修のプランの提案も	
CLOSE UP	54
21世紀の伊能忠敬を目指したい 62歳 測量の専門学校に入学	
KEYWORD⑥⑦	48
平成11年版 建設白書より ～人口の動きから見た住宅・社会資本～	
BOOK GUIDE	43
『日本経済再生の戦略』 『居住福祉』	
OPEN SPACE	56
2000年、ビジネスマンの仕事と生活への提言 職業という難物 ベトナムにいる息子	

人物ネットワーク③⑨	4
インタビュー 木村尚三郎	

特集 2000年・新たな時代へ

幸せの在処 <sup>ありがた</sup>	
幸せの在処を求めて	8
木村尚三郎(東京大学名誉教授)	

これからの土木教育のあり方	14
五十嵐日出夫(北海学園大学教授)	

建設産業の行方と在り方	18
小沢道一((財)建設経済研究所常務理事)	

漂流都市をどう生きるか	20
～幸せの都市散歩論～ 望月照彦(多摩大学教授)	

川を蘇らせよう、世界の動き	25
「世界水ビジョン・川と水委員会」について 尾田榮章(世界水ビジョン・川と水委員会事務局長)	

21世紀社会への視点	30
～自然との一体感を～ 澤登信子(ソーシャルマーケティングプロデューサー)	

幸せの在処としての農山村	32
～じよんのび高柳～ 鈴木輝隆(日本上流文化圏研究所常任理事)	

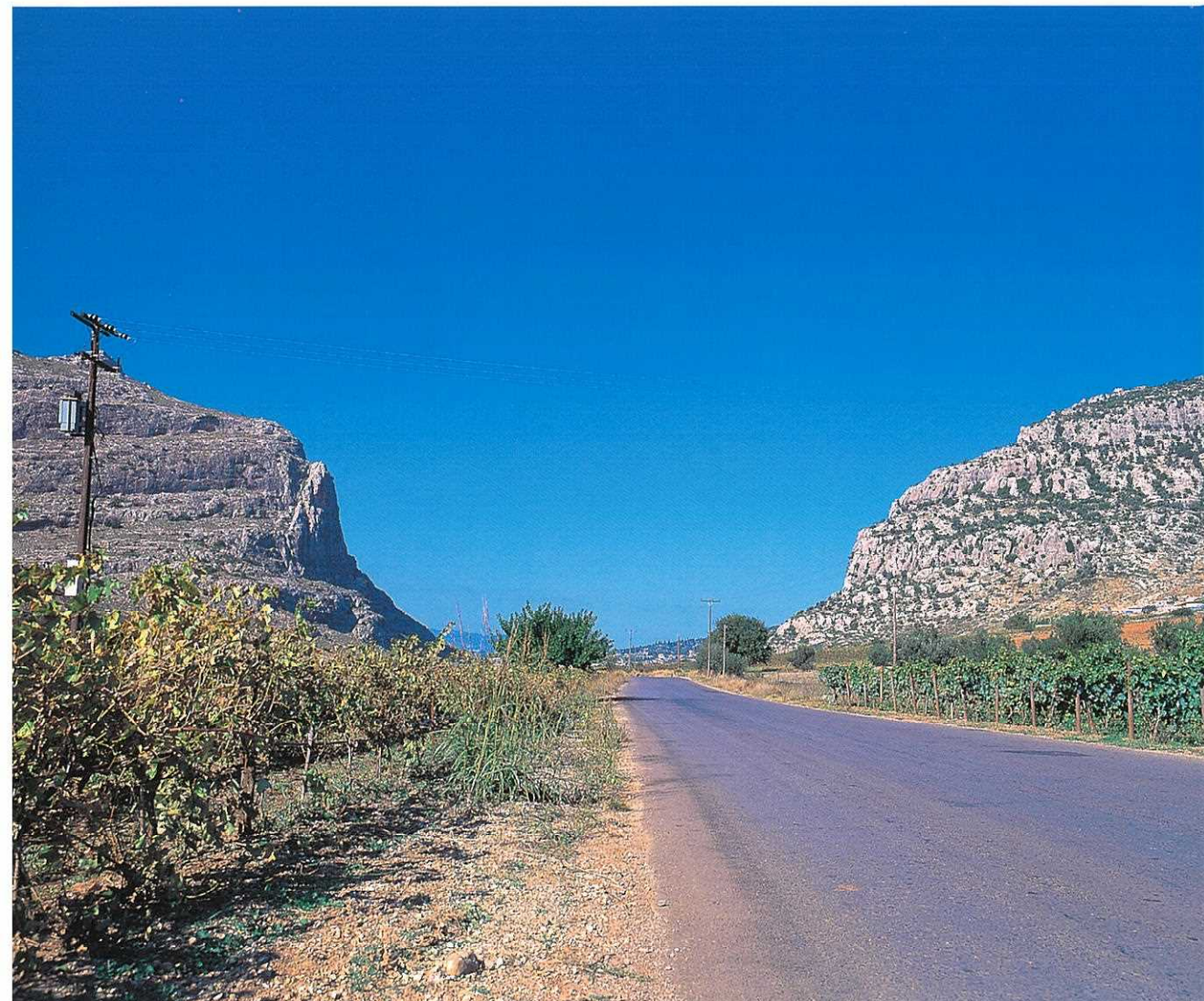
# 国づくりの研修

第87号 2000.2

表紙 ひがしもこと乳酪館  
(北海道・東藻琴村)

edit & design. 緒方英樹/磯林久仁子  
高梨弘久/鈴木久美子





### ギリシア神話に由来する道……ネメア村入口

ペロポネソス半島北東部の「ネメアの谷」の入口。

古代ギリシア4大体育祭のひとつネメア競技祭に参加する為、スパルタやトリポリなどの各都市国家の競技者が通った昔からある道。遺跡から南方に「臥せる獅子」に似た山（トレノス山）があり、右手に見える山の岩肌は獅子の鼻先に当たる。神話では、ヘラクレスがこの山の洞窟で巨大な獅子と戦ったと伝えられている。

この通路の堂々とした関門のような景観は、まさに神話上最大の雄ヘラクレスに相応しい。

現在、ネメア村一帯はギリシアワインの名産地で赤も白も名高い。特に赤はブルゴーニュのピノ・ノワール種にも似たアギオルティコ種で特に名高い。道両側には白ワイン用のぶどう畑が広がっている。

（撮影と文・橋本武彦）



リレー③ 人と人の間に、時代が見える

## 人物ネットワーク



# 木村尚三郎

平成十一年九月二十七日に

きむら・なむさぶろう

東京都出身。

歴史学者。東京大学名誉教授。

東京大学西洋史学科卒。日本女子大学、東京都立大学助教授を経て一九九〇年まで東京大学教養学部教授。

専門はヨーロッパ史・現代文明論。さらには音楽から映画批評、現代産業組織論など幅広く、エッセイストとしても知られる。『ヨーロッパとの対話』（一九七四）は日本エッセイスト・クラブ賞受賞。

「食料・農業・農村基本問題調査会」（首相の諮問機関）会長など多くの政府・自治体・団体の会長や委員長も務める。高校地理歴史科創設の推進者でもある。国際博覧会などのプロデューサーとしても活躍、九八年発足したイベント学会会長。

著書『歴史の発見』、『都市文明の源流』、『家族の時代～ヨーロッパと日本』、『折り返し点からの発想』、『作法の時代』、『和魂洋才のすすめ』、『耕す文化』の時代、『文化の風景』など多数。

北本正孟氏からのリレー。



まず「イベント」という言葉について、どう捉えたいのでしょうか。

イベントというのは日本語なんです。ですから、はっきりした定義なり概念は、まだないと思うんです。言葉そのものからすると、イベントというのは「事件」とか「出来事」ということです。出来事と言いつても、事故か何かで犠牲者がたくさん出たというようなことじゃなくて、楽しい出来事です。驚きがあり、楽しさがあり、そしてまた夢もある、そういう出来事を人々が求める時代がやってきたということだと思います。

## 二〇世紀から二十一世紀へ

2000年という時代の転換期に入り、イベントも目白押しです。

日本にはミレニアム（千年の期間）という発想が基本的にはありません。ヨーロッパの場合、キリスト教世界で一〇〇〇年ごとに大きなお祭りをやりますから、当然二〇〇〇年には大祭りがカトリック教会であります。そして一〇〇〇年前のことと今は断絶しているのではないので、いまヨーロッパにある都市や農村の数も、基本的には一〇〇〇年前と同じなんです。もうちょっと厳密に言いますと、十二世紀を中心とする前後二〇〇〇年に今日の基礎ができました。例え

ば町へ行きますと、必ず町のどこかに昔の中心部がある。大学の基礎もそのころできた。イギリスだけは、かつて農村だったのが都市になるケースがあちこちあるんですが、今日のヨーロッパの社会と文化の基礎は大体十二世紀を中心に行きましたから、一〇〇〇年前のことというのは現実でもあるわけです。

ところが日本の場合、一〇〇〇年前というと、紫式部が『源氏物語』を書いたときで、そのころというのは気の遠くなるような話ですね。いまの私たちとの一体感はまだでない。だから次の千年紀と言われても、ぴんとこない。ですから、千年紀という形だけでもしお祭りをやったとすれば、あまり成功しないのではないのでしょうか。

それに対して世紀の方は私たちにとって大きな実感がある。二〇世紀とは何だったんだろうかということもだれもがいま振り返っており、次の世紀はどういう世紀なのかという期待もあるはずなので、西暦二〇〇〇年のイベントは、二十一世紀という要素を含ませた上でやれば成功するのではないかと思います。

二〇世紀から二十一世紀へ、数字が変わりません。だけどそこでがらっと世の中が変わるのではなくて、ある意味で二十一世紀はとうの昔に始まっているわけです。旅に象徴される人の大移動、理性と感性とのバランスのとれた生き方、あるいはふるさと志向も、みんなこれは二十一

世紀型の生き方です。二〇〇〇年をその意味で、一九九九年から二〇〇一年への大きな時間の変わり目という形で考えるならば、二〇〇〇年のイベントというのは意味があるんですね。

いま大きな歴史的転換期の中にあつて、何かここでいいことが起こりはしないかという期待もあるでしょうし、それをうまく形で活用してイベントを展開する。ただし、たくさんイベントが出てきますので、自分たちの特性をいかに際立たすことができるかが大事だと思います。

## 名プロデューサー、吉宗

江戸時代あたりから、同じような歴史的経緯が見られますね。

江戸時代、一八世紀最大のイベントプロデューサーは、徳川吉宗です。

農民一揆、間引き、都会の米騒動が始まったのが享保年間。その時に吉宗が花見を始めたんです。千本桜を江戸に植えさせた、つまり江戸に森をつくったわけです。そして花見を勧めた。「花見とは何ぞや。花を見るのが目的か、酒を飲むのが目的か」と言われますと、分けられないくらいぴたっと結びついている。「花も実もある人生」と言いますが、花の美しい要素と実質が結び合ったと言えましょう。

何のためにそういうことをやったかという



れる携帯電話が盛んです。ペットボトルを持って歩いている人が多くなった。日本は、サハラ砂漠の真ん中じゃあるまいし、ペットボトルを持たなきゃ、のどが渴いて倒れて死んじゃうなんていうこともないんです。でも、歩きながら飲み物とか食べ物を持っているというのが、いま非常に楽しい時代で、したがって弁当がばか売りに売れているんです。弁当と総菜屋は、いま三・六兆円市場で、まだまだ伸びていきます。あれはポータブルだからですね。ノート型パソコンもそうですし、靴はもちろんそうですよね。時計もそう。秒針のついている時計ですね。

もう一つは美しさなんです。あしたが輝かない分、きょう一日一日を美しく生きていきたい。きょう一日一日の暮らしと命を最高に輝かせたいという気持ちがあれば、栄養分がそろっている物を食べるのであれば、栄養分がそろっているだけでは不十分で、楽しく、おいしく食べたい。そうすると、気の合った人と一緒に食べたり飲んだりした方が楽しいということ、全世界的に外食の占める比率がどんどん大きくなっていきます。逆に言うと、家で一人で食べる比率が少なくなっているということです。

日本では、個食ということをよく言いますが、それだけを強調するということは、いま正しくなれていると思います。誰かと楽しく食べ合いたいということもあるでしょう。アメリカの出張サラリーマンですら、夜、ホテルのレストランで一人でこそ

ごそ食事をしてるのは非常にわびしくて、そういうときにホテルの副支配人がそろりと出てきて、「お客様、よろしければ食事の相手をさせていただきますが、いかがでしょうか」というのが、いまアメリカで受けていると言われています。

だれもが人情を求め、人と一緒に楽しいことをしたい、美しいことをしたいという気持ちがにあるんです。一緒にいる場所も、かつてのように、例えば明るければいいというものじゃなくて、恋人と二人のときには薄暗い方がいいでしょうし、誕生パーティーのときには明るい方がいいでしょうし、そのような光の演出もこれから考えるべきときですね。石井幹子さんもおっしゃっていたように、例えばレストランで、テーブルごとにお客様が光の調節がきたらどんなにいいか。それは、スライドラックをつければ難しいことじゃないんですからね。

## 心の通いあいを求めて

国民一人一人に配慮するというのが戦後の政治の基本だったわけですが、それはまだ実現できていない。経済もできていないものですから、こういうことは、何よりもまず身近なイベントからやっていくとどうでしょうか。先の照明でも一人一人に配慮した明るさ、お年寄りにとって適当な明るさというのもあるでしょうし、若い人にとつての明るさということも言えるのでし

よう。あるいは、部屋が春、夏、秋、冬で照明によって雰囲気を変えられたら、それは一つのこれからのマンションの売れる目玉になるでしょうね。光の演出によって、涼しくなったり、暖かくなったりします。そのようないい光といいい香り、いい音、そうした美しい感性空間の中に身を置いてやりますと、自然に心が開けて、お互いに仲間になり合えるんですね。

昔、お坊さんは寝るときに、白檀の小さな仏壇みたいなものを持っていて、それを広げると仏様が出てくるわけですが、それを枕元に置いて寝ました。枕仏と言って、仏様を彫ってあり、香りがいいですから、それはいい眠りができるわけです。ああいう昔の人の知恵をこれからもっと出すべきです。

独特のいい光、おリンのいい音、お経のいい声、お線香のいい香りはみんな仏壇のある場所にあったものです。その仏壇の前に行くと、自然に亡くなった人と生きている人の間の心の通いあいが生まれてくるわけです。これがいま、また新しい形で求められています。

あるいは昔、よいとまけの労働歌で心が一つになったし、子守歌でお母さんと赤ちゃんは心が一つに結ばれました。田植え歌もそうです。現在では、たとえば西有田という九州の町で、「アジア田植え歌フェスティバル」というのをやっています。お互いに田植え歌の合唱をしています。これが評判になっておりますし、高



岡という富山の町は、大友家持ゆかりの土地だということ、「万葉朗唱の会」というのを一〇月初めにやっていて、市民一人一人が万葉集を二首から三首歌い継ぐんですね。三日二晩、夜となく昼となく歌う。これがまた大変な評判になりまして、お互いに高岡市民であるという誇りとか連帯を実感しています。

三年前に出来た横浜の能楽堂では、昨年、今年と一月の末に謡の大合唱をやりました。年末にベートーベンの第九の合唱つきをなぜか日本で演奏するものですか、その向こうを張って、一月末に「高砂や」の大合唱をやるわけです。舞台の上は専門家、客席は一般の人、これが大合唱をやる。これも、日本じゅうから人がやって来ているようです。

戦後の高度成長期は機械がどんどん発展しましたから、むしろ声を出さなかつたわけです。コインを入れれば、自然に求める品も出てくるので、人前で声を出すということがなくなつた。あいさつもなくりましたし、だれかに語りかけるときは、必ずマイクを持ってやる。知らない人との間では、地声でお互いコミュニケーションをする機会が本当に減つたと思います。

## 祭りの時代へ

例えば、お遍路さんというのは、一八世紀、一九世紀、江戸の中期、後期に今日の基礎を築

いて、いままた年間一〇万人の人が四国のお遍路さんに出ていると言います。この人たちは、治らない病気に取りつかれたとか、借金で首が回らない、あるいは愛する人に先立たれたとかで、身も心もよれよれになってお遍路さんに出ていくわけですね。白装束に身を固めていていくことは、一たん自分を死んだ身にして出ていく。そうすると、その杖にやってきた弘法大師と二人連れ、つまり「同行二人」なので、ひとりぼっちじゃないということです。

そして、お札所に行きますと、たまたまあちこちから人が集まってきた、一緒にご詠歌を歌う、あるいはお経を上げますと、声が自然に合っていきます。声が合うと、心がお互いに結ばれ合うわけで、次のお札所に向かって一緒に歩いていく。それで、自分の家とか自分の地域で絶対に言えない悩みも、そこでは打ち明け合えるわけで、心がさっぱりする。同時に、自分を見つめるもう一人の自分がそこに出てくるわけです。自分はいろいろと悩んでいたけれども、仏にすがるといことがいかに大きな安心を得るものか、人情がいかに大事か、あるいは人と自然との一体化がいかに大きな安心感を与えるものかとか、大事なものが見えてくる。したがって、四国八八カ所巡りを終わって満願成就した後は生まれ変わるとい発想が昔からあり、違う自分が出てくるわけです。

これは、まさに心の旅です。そこには「動く」

という要素があり、人情の美しさとか、景色の美しさに触れるというよさがあります。その美しさと動き、それからもう一つ、私たちがいま求めておられますのが、安心、心の安らぎです。友達がほしいということですね。老いも若きも友達と一緒になる機会を真剣に求めている。このように安心、美しさ、そして動き、この三つを満足させるようなイベントが出てくれば、そこに人がやってくることは間違いないでしょう。そのような、人間学、人間についての洞察というのが、これはイベントに限りませんが、これからありとあらゆる経済の営みにとって必要不可欠です。

イベントをやつて、こつちで成功し、こつちで失敗するということはあると思いますが、まさにそれは、いま人が何を求めているかのリトマス試験紙になるものです。企業も地域も、ある地域がどうやって自分をセールスするか、企業はこれからどうやって自分の存在感を訴えていくか、そういうことを考えるときに、イベントを常時いろいろな形でやっているということが、そこから学べるものがいかに大きいかということがあります。したがって、物が動かない時代だからこそ、イベントに乗せて物を買ったり、あるいは人情を売ったり、知恵を売ったり、そういう時代が来ているんじゃないかということ、二十一世紀は、広い意味の祭りの時代と言えんじゃないかと思えます。(談)

(一九九九年九月二十七日収録 構成・編集部)



# これからの土木教育のあり方

日本の未来のために必要なことは遠慮しないでやるべきです。きちんと優先順位をつけて市民の皆さんに説明し、自信を持ってやる。そうなってくると、土木界は大きく変わってきます。そして、その土台になるのが広い教育なのです。

〔インタビュー〕



五十嵐 日出夫

北海学園大学教授に聞く

(いがらし・ひでお)

## 時代と土木

まずは、土木教育の現状についてのどのような感想を持たれているか、その辺りからお聞かせください。

これまで土木界は公共事業に頼りすぎていました。だから、政府のほうに向かつていけば事足りていたのです。しかし、これからの土木は政府のほうばかりではなく、国民のほうにも向かっていく努力がますます必要になってきます。どんなに有益な公共事業でも、反対のない公共事業は決まないということを私も考えるべきです。必ず反対が出てくるし、それがむしろ正常です。そういう反対運動に対して、「それなら協力してやってみよう」と市民の皆さんの理解を得るためには、可能な限り情報を公開し、今、何をやっているのか、何のためにするのかを知ってもらう。あるいはパブリック・インボルブメントといいますか、市民にも最初の計画段階から入ってもらう。これが外に向かつて土木界がすべき第一のことだと思います。

ただ私どもがこういう考えであると説明しても、市民の皆さんにそれを受け止める用意がなければなりません。この点、今まで土木界は業界言葉でしゃべりすぎていたように思いますし、何よりも社会教育が不足していたのではないのでしょうか。



この間、私は土木を受験するよう勧められてほしいという大学の要請で高校めぐりをしたのですが、その際に私の専門である都市計画、交通計画の話もしました。「土木でそういうことをやっているんですか」と進路指導の先生方に驚かされてしまいました。まちづくりは高校生のしたいことの第一位なんだそうですが、まちづくりからは建築をイメージしているらしいんですね。

時代とともに土木の内容は変わってきています。昔は稲作のための農業土木、これが日本の土木事業の一つの大きなものでした。やがて明治に入ってから、言うならば工業のための土木になってきました。戦争が終わった後もしばらくはそうで、ひたすら産業道路に力を注ぎました。そして、最近ようやく都市土木、一般市民のための生活土木が重要視されるようになりました。都市には人口の八〇%ぐらいが集まるわけですから、そこでやる土木は本当のシビル・エンジニアリングです。それから、土木は総合先端技術です。例えば電子・情報とかバイオとかそういう先端のあらゆる技術を活用して、私たちの都市生活社会をつくっているんです。こうしたことを入ってくる学生や一般の人は知りませんし、土木をやっている先生の認識も足りないというのが私の感想です。そういう意味で、時代に追いつけなかったのがこれまでの土木教育ではなかったでしょうか。

## 現実社会に目を向けて

そうした時代変化に対応して、土木教育の内容やカリキュラムに変化はないのですか。

今のところあまり見られませんがね。例えば構造力学や水理学では、教科書の内容も昔とほとんど変わりません。安全率にしても、人が住んでいるかどうか、どのような産業が立地しているか、あるいは幹線道路であるか支線道路かといったことによつて、そこにつくる構造物の安全率を変える必要があるのに、常に一・五だとかね。地震の頻発する地域と地震の少ない地域とで同じ設計をやっているのはだめじゃないですか。安全率というのは構造で決まるものではなく、人間とのかかわりで決まるものなんです。例えば地滑りが発生した場合、全く人が行かない山の中であれば、それは自然現象です。里の中の日常使っている道路で起これば、これは災害になります。在来の土木は、里で起る地滑りも、山で起る地滑りも同じものと考えていました。

また、カリキュラムに関しても、都市計画は建築においては重要科目の一つですが、土木では私の大学でも残念ながら選択科目です。しかし多くの学生が選択しますし、他学科の学生まで聴講にやってきます。それだけ人気が高いのに、土木では必修科目にならないんです。こう

した土木教育の現状を変えていくには、土木をやっている私どもがもっと現実社会に目を向け、翻つて土木技術の中身や体系、教育のやり方を考えていかなければならないだろうと思います。

ただ、変化の兆しはあります。北大とか東大、東工大、東北大などは大学院大学になってきています。大学院大学は学部よりも大学院に重点を置き、北大の場合ですと、学生の七割が大学院に進みます。そこで本当の土木というものを学び、学生はプライドを持つようになります。社会人もどんどん入ってきますので、「随分いい仕事をしているな」と、その人たちを通して現場が見えてくるというメリットもあります。

これからのような指導が大切になるのでしょうか。

## 人間社会の力学を

今度、土木学会で倫理綱領を作り直したでしょう。その際に、大学でも倫理教育をやるべきではないかということが話題にのぼりました。この提案には誰もが賛成したんです。ところが「そういうことを教えられる人がいるの？」とあって、そこで皆さん首をかしげてしまいました。もちろん、そんなところで引き下がるべきではありません。こういう考え方をすればこれが正しい、別の考え方があればこうだとか、世の中にはいくつもの考え方があって、それぞれ違います。大事なのは、いろいろな考え方が



あるということをお教えることです。例えば宗教学でも、仏教はこうで、キリスト教はこうで、イスラム教はこうという具合に教えるじゃないですか。土木も同じです。日本では伝統的なこういう考え方でこうなってきた。アメリカはこうで、ヨーロッパはこうというように、その基本となる考え方を学生に教え、どれがいいかは学生の選択に任せるんです。

また土木技術者の中には、歴史を乗り越え今に残る偉大な先達がたくさんいます。理屈だけでなく、その具体像を教えることが大切です。倫理、価値観、文化というのは人についているのであって、物についているわけではありません。今、土木学会には、例えば斬新ですばらしい橋梁を架けると、それを表彰する制度があります。ただ、賞というのを橋に与えるのはおかしい、つくった人々に与えるべきだと私は思っています。今までの土木技術、土木工学の体系は、人間とか社会をあまりにも無視してきました。人間を忘れたから、無駄なこともやってしまったわけです。物の世界の力学は教えても、人間社会の力学を教えてこなかったことに大きな問題があったのではないのでしょうか。

土木のイメージを変えていくことも必要ですね。

## 利他行の心

そうですね。土木はよくダサイとか言われま

すが、本来は土と木ということで、非常にいいイメージなんです。それなのに、大学の教師も土木は三Kだとか五Kだとか学生に向かって話すでしょう。そんなことを言ったら誰がそれをやるのか。どんな仕事だって真剣にやれば辛いし、汚いものです。全国建設研修センターで発行された「土木の絵本」にも記されていました。もともと土木の仕事というのは、築土構木をやったお坊さんたちの「利他行」の心が根底に流れているんです。最近、その精神が忘れられているように思います。

今、いろいろな幸福論が出ていますが、煎じ詰めて幸福論のエッセンスを言うとすれば、自分と人のためにいかに貢献するか。これが幸福の根本ではないでしょうか。金持ちになるかとか、自分の欲求を満たすためにいろいろやっても、結局は幸福になれないんです。本当の幸福とは、お坊さんたちがお経を読むだけでなく、外に出て行って井戸を掘り、道をつくった「利他行」にこそあると思いますね。だから菩薩と崇められ、またご本人たちも幸福だったと思うんです。土木は社会工学であり、シビル・エンジニアリングですから、その精神が一番生かせる分野なんです。

ですから、私は都市計画を教えていて「(思想的に)裸になれるか」と学生によく聞くんです。都市計画とは、われわれがいかに生きるべきかを考えることなんです。自分の全人格を投

じて、これだと思う計画を提示し、市民の皆さんがどれがいいとおっしゃるか。決まったマニュアルとか仕方書はありません。まずは裸にならなければならない。誠実にならなければならない。そうした意味で、「都市計画は格好いから」という発想で飛びつくと、道を誤ってしまうおそれがありますね。

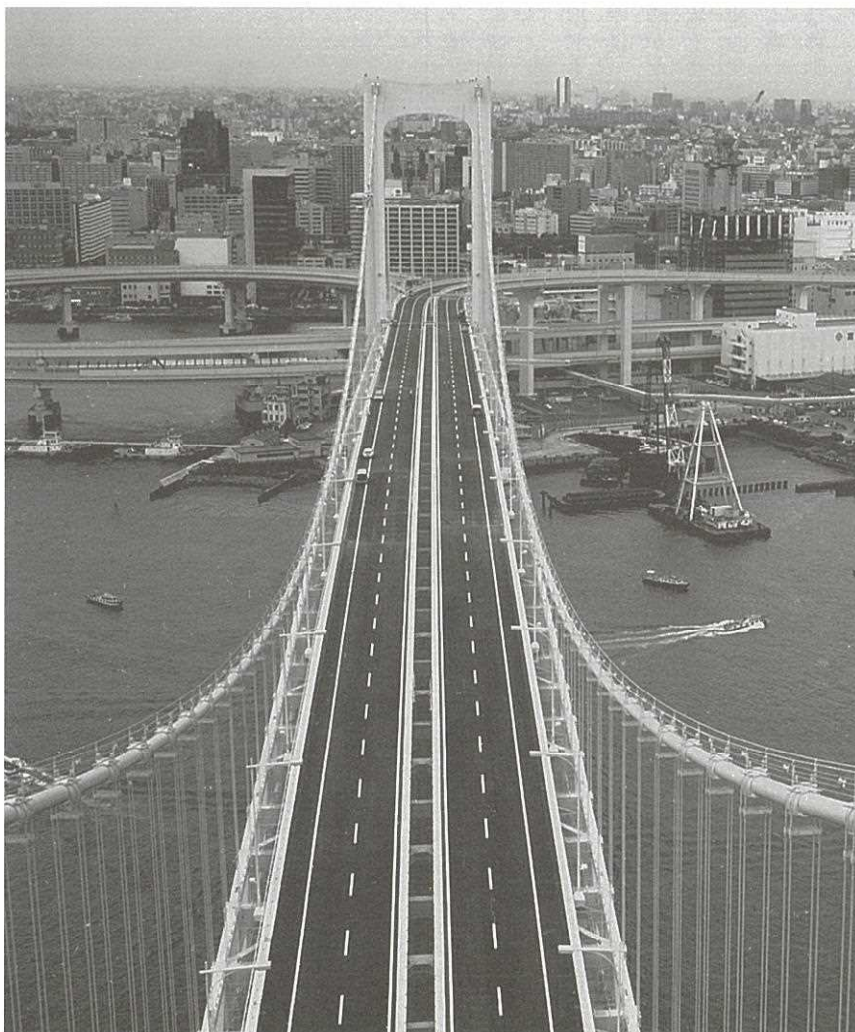
土木に対する一般理解では、環境破壊とかスキヤングラスな面ばかりが強調されてきた経緯もあります。

## 土木への誇り

それはなぜか。日本土木工業協会の前の専務理事がそれに対して反論しましたね。しかし後が続かないじゃないですか。一人が主張しても、そうだと行ってくれるセカンドがつかないとだめなんです。土木界には、割と自分のことを言わない伝統があって、曖昧にしたり、先送りしたりするからたたかれてしまうんです。

談合という悪いけれども、みんなで力を合わせて大仕事をやるというのが、土木という職業の性格ですし、ある程度相談しないとままらない部分もあります。そういう意味で負のイメージを払拭するためには、本当に大きな仕事をやったら、記念碑でも建てるべきだと私は思います。責任者の名前ももとよりわずかな仕事をやった一般労働者の名前もそこにずらりと書いて、これはみんなで作ったんだと誇るべ





土木は形として残る。この利点を教育にも、仕事の誇りにもつなげたい。

(写真：東京・レインボーブリッジ)

きです。それが仕事への責任感にもつながってきます。土木事業は自分のやったものがちゃんと残るわけですから、孫を連れてきて、「これはおじいちゃんが若い頃につくったんだよ」と形として見せることができる。これは大きな利点です。もう亡くなりましたが、新丹那トンネル

ルをつくった坂本真雄さんと一緒に、新幹線から新丹那トンネルを見ました。トンネルに入ったら、坂本さんは窓に額をつけて、全然車内を見ないんです。真っ暗で何も見えないはずなのに、その暗いトンネルの様子が手に取るようにわかると言うんです。その時に私が思ったこと

は、やはり自分のつくったものに対してこのように誇りを持てるようになってほしいということでしたね。

最後に、これからの土木技術者にはどんな資質が求められますか。

## 市民へのアピール

一つは時代の流れを読み取る先見性です。それから自分の考えをしっかり持ち、それをわかりやすく表現する力です。そして最初にも言いましたように情報公開、隠さないといいことです。こちらから出かけて行って、日蓮上人のようにな説法をやってもいいんです。それが一番やりやすいのが大学と学会です。ですから、私は時間があれば自費でも出て行きます。自分の信じるところを誠実に力を尽くして、市民の皆さんにアピールしていく。これがこれからの土木技術者に一層求められてくると思います。

近頃はわれわれが大きな仕事をやると、そのために子どもや孫に借金を残すのはけしからんという声も聞きますが、必要なことは遠慮しないでやるべきなんです。だから未来がよくないのであって、非難されるからとやるべきことをやらないことこそ罪ではないでしょうか。きちんと優先順位をつけて、市民に説明して、そして自信を持ってやる。そうなっていると、土木界は大きく変わってきます。



# 建設産業の行方と在り方

建設産業は、二〇世紀後半飛躍的に成長した。生産額が大きく膨らんだことは言うまでもない。建設技術の進歩も著しい。超高層ビル、大型ドーム建築物、長大橋、海底トンネル、海上空港、巨大ダムなどこれを示す事例は、枚挙に暇がない。また、元請け施工高に対する下請け施工高の比率が約七〇パーセントに達するなど建設生産システムも大きく変容した。

高い人口増加率に加えて人口の大都市への大量移動、経済の高度成長など建設産業を大きく成長させる条件がそろっていたのである。

今や、建設産業は、生産額の約一割、就業者数でも約一割を占める大産業となっている。建設産業は、こうした成長をとおして、国民の福利の向上に貢献してきた。

この建設産業は、現在、大きな試練に晒されている。今、曲がり角に立っているといつてよ

い。建設投資は、九六年度八二・八兆円、九七

年度七四・五兆円、九八年度七〇・五兆円と、

この二年間で一四・五パーセントも減つてい

る。政府投資は微減にとどまるが、民間投資は、

大幅の減少である。政府投資の比率の高い地方

中小土木系会社の経営状況は、悪くはない。し

かし、民間投資の比率の高い全国的総合建設会

社の経営環境には、厳しいものがある。この二

年の間に受注が大幅に減少している（日建連加

盟会社国内受注一五・八％減）。また、バブル

期の負の遺産を抱えている会社があることは、

周知のとおりである。

建設産業は、この先どうなるのか。それは、

何といつても、建設市場がどうなるのかにかか

っている。



## 小沢道一

(おざわ・みちかず)

(財)建設経済研究所 常務理事

建設市場は、今後縮小の方向に向かう、というのが私の見方である。

国立社会保障・人口問題研究所の予測によると、わが国の人口のピークは二〇〇七年、世帯数のピークは二〇一五年である。それ以降、人口、世帯数は減少に転じる。また、人口の高齢化率は、急ピッチで高まっていく。これに伴い、経済の成長率は鈍化・低迷し、貯蓄率は低下して行くであろう。こうした社会経済の構造的な変化が今後の建設市場の動向を決める。

まず、民間住宅建設投資については、世帯数の増加はそのピークである二〇一五年に向かつて次第に減って行くから、これに伴い、新設住宅着工戸数は減少することになる。今年度の右戸数は一二五万程度と思われるが、私の試算では、この戸数は、数年の内に恒常的に一〇〇万戸を割るようになるだろう。

次に、民間非住宅建設投資については、民間設備投資の対GDP比がバブル崩壊後一五パーセントを割る年が増えており、今後欧米並みの低水準になって行くだろう。また、民間設備投資に占める建設投資のウエイトは、戦後おおよね三〇パーセントから四〇パーセントの間を推移してきたが、バブル崩壊後急低下し、九八年度は二四パーセントにまで落ちてきている。こうした低落傾向は続くと考えなければならぬ。

さらに、政府建設投資については、財政制約が厳しくなるということである。今年度末六〇〇兆円と見込まれる国・地方の公債残高を、低成長を余儀なくされるわが国経済が混乱に陥ることなく処理して行けるのか。財政のパイをめぐる社会保障費との綱引きの中で公共事業費を確保できるのか。難しい問題がいろいろある。

以上のように、建設市場は、規模・量の面では縮小に向かうだろう。しかし、質の面では相当変容すると考えられる。

第一には、維持・補修・立替え更新工事の増大である。民間住宅、民間非住宅、政府建設いずれの分野においても、これは確実である。

第二には、環境・リサイクル、情報、高齢化・福祉・医療、防災に関連した建設投資の増大である。この兆候は、すでに随所に現れている。

第三には、CM、PM、PFI、発注者支援など建設に関連したノウハウ提供型ビジネスの増大である。

また、今後の建設市場を考えると、競争条件が厳しくなるということも考慮しておかなければならない。市場の縮小に伴う競争の激化は当然のこととして、メーカーや外国企業の参入、従来主として中小規模の業者や専門工事業者の守備範囲であった中小工事・維持補修工事への大規模会社の参入、CMの導入など発注方式の多様化に伴う総合工事業者と専門工事業者との競争、そして何よりも、顧客からの建設コスト削減要請の高まりなどである。

建設産業は、今後、こうした厳しい市場の変化に対応して行かなければならない。どう対応すべきか。以下、何点か述べる。

第一には、会社経営のスリム化である。特に全国的総合建設会社の場合、現在過剰雇用を抱えており、従業員削減に必死に取り組んでいる。今後の建設市場を考えると、この努力はなお当分続けられなければならない。そして、施工に重点を置いたスリムな体制にして行かなければならない。

第二には、企業の合併や連携である。今後建設市場の縮小に伴って、企業の淘汰は避けられない。企業数の穏当な減り方は合併や協業化である。また、コスト削減を図るため、研究開発、資材調達、人材育成など様々な面で企業連携が進められなければならない。さらにまた、専門

工事業者の場合、着実な拡大が見込まれる維持補修分野に乗り出す有力な手法は、複数の業種の業者が連携して営業と施工に当たることである。このようにいろいろな部面で合併や連携が進められる必要がある。

第三には、人材の養成である。建設業は、当面のところは過剰雇用であるが、中長期で考えると、若年労働力が不足することが懸念される。建設技能の若者への承継も重要な課題である。また、先に述べたノウハウ提供型ビジネスを展開するには、高度の知識を持った専門家を養成しなければならない。

第四には、建設生産システムの効率化を図るということである。建設生産の中核をなすのは元請け下請け関係である。この元請け下請け関係には、三層、四層になるなどの重層化、ピンハネ業者の介在、円滑とはいえない工事代金の流れなど難しい問題を抱えている。発注者が実際に施工を担う業者に結びつくことにより、この関係を簡素化するとともに、工事代金の流れを円滑にして行かなければならない。

第五には、公共工事発注政策の改革である。現在の公共工事市場は、十分に競争的とはいえない。今や公共工事が建設市場の五割近くを占めるに至っていることを考えると、公共工事市場の競争性を高めることにより建設産業全体の効率化を図ることは、重要な課題である。



# 漂流都市をどう生きるか

## —— 幸せの都市散歩論 ——

### 発見としての散歩

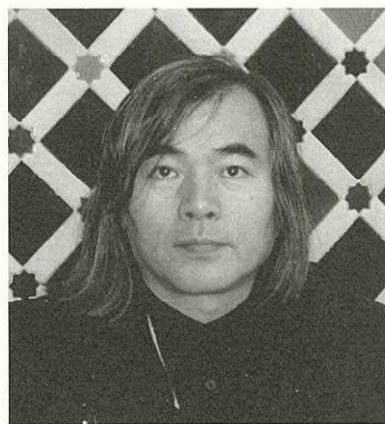
参宮橋のわが家からは明治神宮が近い。歩いて四、五分で西参道の鳥居に到着することができる。従って明治神宮に隣接する代々木公園と併せて私の格好の散歩コースになっている。ロンドンやニューヨークにいたときにはロンドンやハイドパークで、ニューヨークではセントラルパークで散歩をしたのによく見かけていた。その頃はまだ若かったし、日常生活のなかで、散歩をすることなどまるっきり頭になかった。ロンドンで散歩をする人を見かけたときは、それはイギリス人特有の慣習ではないかと思っていた。ニューヨークで散歩をする人達は

一種のファッションではないかと私は感じていたのだ。ところが私がいま、都会のど真ん中の森をひたすら散歩しているのである。

忙しい合間を見て、私は散歩する。多くはワイフと一緒にである。そして、散歩に関してはワイフの方がことさら熱心である。彼女の場合、散歩は健康のためであるらしい。私が留守のときにも代々木公園や明治神宮をよく歩いているということだ。それが時間のない私にはうらやましい。しかし私の散歩は健康だけではない。少し格好をつけていえば、思索のときでもあるのだ。

実のところ、私の散歩の始まりはそれ自体が目的ではなかった。明治神宮という巨大な都市林に興味があったからである。

地方の高校を卒業して東京の大学に入るため



多摩大学教授

### 望月照彦

(もちつき・てるひこ)

に上京したのはもう三〇年以上の昔である。上京して下宿したのは千駄ヶ谷の叔母の家だった。すぐ裏手が新宿御苑で、明治神宮にも歩いて行けた。大学時代の一時期、阿佐ヶ谷で暮らしていたことを除けば、後はずっと明治神宮の周囲で生活していたことになる。神宮周辺で移り住んだ暮らしの場は小さな借家やマンションであったが、共通していたことは新宿新都心の超高層ビルが望める所だった。ある時期住んでいたマンションからは超高層ビル群と明治神宮の森の両方が見えた。超高層ビルのある新宿の方から吹いてくる風には幾分脂粉の匂いが交じっているように思えたし、明治神宮からの風には森と土の匂いがあるように思えた。脂粉の混じった風は生暖かったが、神宮の風は冷えてさわやかな感じがした。

その頃から私には都市の森のことが気になり出していた。時々暇を見て明治神宮の森に足を運び出したのである。千駄ヶ谷の叔母の家にやっかいになっていた学生の頃は、神宮の森は武蔵野と呼ばれていた時代の自然の残存物ではないのかというイメージがあった。ところが気になり出して調べてみると明治神宮とはまったくの人工林であることが分かったのだ。大正九年に完成されたもので、時の東京商工会議所の会頭だった渋沢栄一が、明治天皇のご崩御を記念するため一大都市公園を計画して、それが実現されたものだったのである。神宮の総面積は七〇ヘクタール、これだけの広大な敷地を手当できたのは、加藤清正と井伊家の下屋敷跡を合併したからであるという。建設が始まったときに全国から樹木が献上されて、その総数は二〇万本になったという。第二次大戦の時、社殿を除いて焼失が免れたのは、焼夷弾が落とされても樹木の枝々に当たって、堆積した落ち葉による柔らかな土壌で、起爆しなかったからであるという。そこで戦争が終わった後の森の中には不発弾がごろごろと沢山転がっていたという。

### 日常の美学

今、その明治神宮は貴重な都市の中の緑地として、実に大切な役割をしている。大正時代に

造られた明治天皇のためのモニユメントは、都市のエア・コンディショナーとして、冷えた清浄な空気をヒーティングアイランドとなった東京に絶えず送り出しているのである。気象衛星が東京を写し出すと都市熱で一面に赤くなっているというが、明治神宮と皇居一帯は水色になっている。温度が周囲に比べて数度低くなっている。すなわち、明治神宮とは、東京の中の巨大な浄化装置の役割を果たしているのである。そして、その熱都市東京の発生源の一つになっているのは神宮に近接した昭和から平成に掛けて建設された新宿新都心なのではないだろうか。

無論、『塔の思想』を書いたアレクサンダーは、(スカイスクレパーというシンボル無しには都市は存在しない)といているから、新宿の新都心の存在している意味は大きいだろう。しかし、渋沢栄一らの明治の事業家や後藤新平らの大正期の行政家らに対して、昭和から平成の時代を築いてきた私たちはその構想力や人間への眼差しの深さということにおいて少し恥ずかしい思いをすることになっているのではあるまいか。

渋沢栄一らが、いま盛んにいわれている「サステナブル・コミュニティ」を眼目にして明治神宮を造りあげたかどうか知るところではないが、自然を尊重し畏敬した都市公園の出現は結果的に東京におけるサステナブル・コミュニティ



明治神宮の西鳥居。この自然のテーマパークは都市を考える上で、学生たちの研修センターでもある。



イの支えをすることになった。

都市から森を駆逐していったことが近代の都市計画であったとしたら、二十一世紀の都市づくりはその森を再び都市に招聘することがポリシイになるのではあるまいか。大正時代における渋沢栄一の行動規範にはその視点が色濃く展開されている。

私の散歩には、実のところそんな思いが込められているのである。

ところで私は一方で「デイズニールランド」の研究も続けてきた。それは現代の都市の集客施設、あるいはサービス施設として最も優れた仕組みやシステムを持ち、地域の活性化の最高のモデルであり、またもう一つにはアメリカ文明の象徴でもあるからである。そこで、私の大学での講座の一つである「都市論」では、学生たちにそのデイズニールランドを研究させてきたし、時には一緒になって浦安の東京デイズニールランドにも出掛けて行って現地踏査といながら実のところは子供のように楽しんできたのである。テーマは、なぜ多くの人々がデイズニールランドに引き付けられるのか、それもなぜ何度もリピートするのであるか、そしてそのデイズニールランドの魅力を生み出しているアトラクションやサービスや施設のオペレーションが一体どんなものなのか、などであった。それらの作業は、現代の都市の魅力づくりを知る上でも、顧客の要求やニーズを分析する上にも大いに役

に立つものであった。しかしある時から、私はその調査の対象を変えらることにしたのであった。都市に暮らす私たちにとって、もう少し大切なことがあると思うことがあったからである。

何年か前に、パリで暮らしている友人に質問したことがあった。「日本のデイズニールランドはアメリカのそれを上回る人気があつて、大変な集客をしているが、パリの郊外にあるユーロデイズニールランドはなぜ長い間集客に苦戦してきたのか」というものであった。ウォルト・デイズニーはもともとフランス人の血を引いている。ユーロデイズニールランドがもつと人気を博してもいいのにそうはなっていない。素朴な疑問が私にあったのだ。

友人は答えた。「フランス人を始めとしたヨーロッパ人の多くは、日常と掛け離れた事にお金を出したがる。一日行つて何万円取られてしまうデイズニールランドよりは、おばあちゃんが残してくれた銀のティーセットの欠けてしまった匙を補充して毎日楽しいお茶の時間を持つことにお金を投資するんだ」すなわち非日常を標榜するユーロデイズニールランドでお金を散財してしまうよりは、日々の楽しみにお金を掛ける事の方に価値を置くヨーロッパ人のライフスタイルは世界最大の消費都市に暮らす私たちに説得力がある。

私は、都市論で学生たちと研究する対象を

東京のど真中に、原生林の様な明治神宮の森がある。





「明治神宮」に変更することにしたのである。そのほうが、研究調査費も十分の一で済ませることができたのだ。

### 「コミュニビリティ」——地域を活かす

二十一世紀に向けて私たちはどんな暮らしをデザインし、実践したらいいのであろうか。今ある都市の暮らしは、「欲望のマーケティング」の罫場の上に存在しているようだ。あらゆる仕掛けが人々の欲望の最大化を訴求している。それらは最大の消費を喚起させているのであるが、明らかに二十一世紀が向かおうとするサステナビリティ、持続していくことを哲学とするゼロエミッションやリサイクルの社会とは相反するものだ。

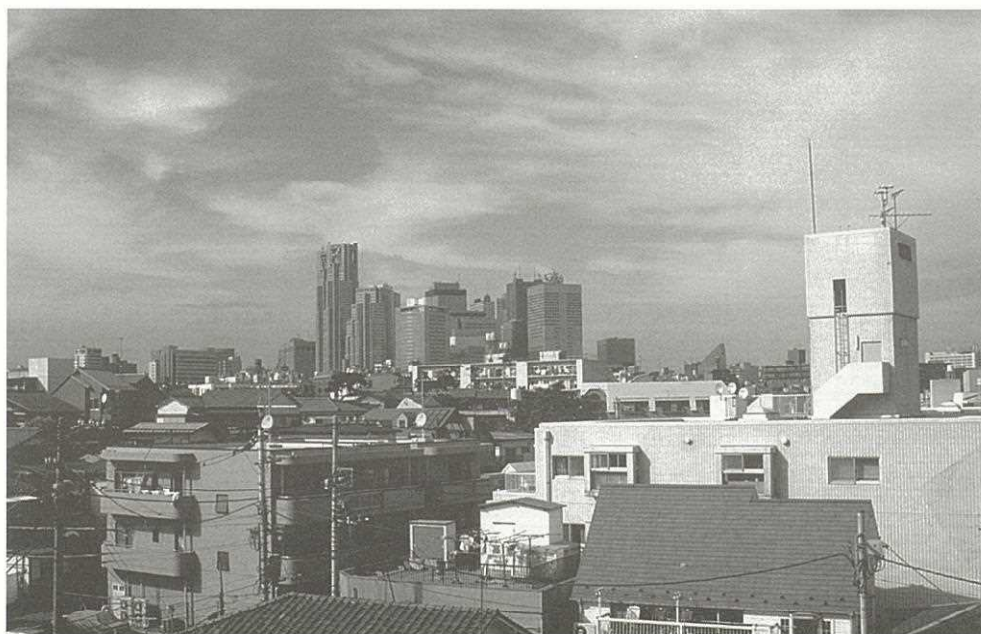
二〇世紀という一〇〇年は、一八、一九世紀の産業革命を完成させた工業化の時代だった。アメリカの経済誌フォーチュンが二〇世紀で最大の企業家としてヘンリー・フォードを挙げていることはその象徴である。工業化とは、消費世界の最大化を必然的に志向する仕組みであり、さらには世界の資源の覇権競争を生み出すことであり、それはいやおうなく戦争を勃発させた。二〇世紀が「戦争の世紀」といわれるのは当然であろう。戦争は物理的な争いの底流に情報戦を展開させていくのであるが、それが

また「高度情報社会」というものを生み出す苗床になったのである。E・ビジネスなどという言葉を生み出した世界中を席卷しているインターネットも、元をたざせば、国防システムの一環であったのだ。二〇世紀文明とは科学と戦争を両親として生まれたといってもいいのかもしれない。

これらは厳しい歴史への視線である。しかしだからこそ私たちはこの一〇〇〇年の変わり目の時代、すなわちミレニアムの時代に強靱な平和と暮らしへの願望と意志を持たなければならぬ。変革の時期に必ず現れた「千年王国論」のイメージを持つて。

千年王国論とは、受難の千年紀の後にメシアが降誕して至福の千年が始まるという土着的な思想である。無論、待っていてもメシアは降誕しない。私たちは意志を持って、この数世紀の歴史の流れの底にある可能性の伏流水に目をやり、小さな流れを集めて奔流としていかなければならないだろう。

そう考えてみると、一九世紀はプロダクティビティ（生産性）の社会を用意し、二〇世紀になると、よくいわれるようにコミュニカビリティ（情報伝達性）の社会を実現したのである。このコミュニカビリティの社会は二十一世紀にも重要な柱として展開されるであろうが、私にはその情報伝達の技術が問題になるのではなく、むしろ情報の舞台が主要な柱になるのではないか



現代文明の象徴としての超高層ビル群。都市の源泉ともなっている。



と予感される。すなわち二十一世紀の社会は“コミュニティ（地域社会性）”が重要な柱になるのではないかと考えているのである。

すなわち二十一世紀の私たちが望む社会や暮らしぶりというものは、自身が依拠する地域社会の再生なくしては始まらないと私は考えるのである。その意味において、二十一世紀社会というのはグローバル社会ではなく、千年王国論が辺境の土着宗教に宿っていたように、ローカルな社会から立ち上がるであろう。ただし、歴史上の千年王国論と違うのは、メシアは天上から降誕するのではなく、地上から生えてくる生命のように再生させなければならぬところである。

## 生活宇宙の思想

地上からの生命の発芽、その生活というものを機軸にした小さな宇宙。暮らしのミクロコスモスのアクティビティの最大化を私はコミュニティと呼びたいのである。インターネットで容易に世界を志向することができる時代だからこそ、足元を見ようといいたいのだ。

欲望と消費の最大化、コンフリクト（紛争）の最大化、生態系の破壊、礼節の崩壊、富めるものとそうではない人々の乖離、都市はますますエントロピーの極大に向かって浮遊する。そ

の先にあるものは、都市と人類の崩壊か。

しかし、と私は散歩をしながら考える。偶然のミレニアムの転換期に、幾つかの大地からの萌芽を発見することができる、と。

私が日常のなかで、明治神宮と出会ったこともその一つである。いま都市に暮らす私たちにとつて大切なことは、強大なテーマパークやSC（ショッピングセンター）ではない。明治神宮が私たちに教えてくれることは、数十年前の事業家たちがやったように、都市に一本の木を植えることである。それは見事に今、都市のエア・コンディショナーの機能を果たしている。事業家でなくても、それを実際にすすめるNPO（ノン・プロフィット・オーガニゼーション）という市民組織も活動の糸口を掴みつつある。行政や自治体に完全に頼り切っていた市民が、地域づくりに自らの力を注ごうとする動きがコミュニティのなかで醸成されつつある。

明治神宮のほぼ真ん中辺に、清正井戸という湧き水があつて、その湧き水は何十年も前に降った雨が地中に浸透して濾過され、そして再び地上に現れてくるのだという。静寂に包まれた森のなかで、私と学生たちはその湧き水を柄杓で汲み上げて飲む。自然の贈り物を口に含んでも学生たちも感動する。その小さな泉は、それだけで地球という巨大な生態としての営みを教えてくれる。私はウォルト・ディズニーの発想も思想も大好きであるが、残念ながらディズ

ニーランドの教訓は、マーケティングには役に立つが明治神宮の存在ほどに本質的ではない。

そして、明治神宮だけが教訓的で本質的であるということではない。私はまちづくりのお手伝いで全国の地域を行脚しているが、それぞれの地域に必ず未来を啓示する歴史や文化の遺産、いや資産があつて、それらが住民たちに貴重なコミュニティの遺伝情報を伝えてくれる。むしろそれらを解説し、未来に向かって活かすのは市民や住民の知恵と意志である。

明治神宮からは本当に様々なことを教えてもらった。歩いて五分の私の生きている百科事典である。七〇年を経た今、この森は極相にあるという。森の新陳代謝が定常化しているのである。都市やコミュニティに極相という現象があるのだろうか。これらのテーマはこれからみんなして解答を求めていかなければならないだろう。

しかし、よく分かることは浮遊し漂流する都市だからこそ、あらたに生きて行く知恵が、勇気があの清正井戸のように地底から湧いてくるということである。千年の至福をこのミレニアムの時に私たち人類が獲得できるかどうかは疑問である。しかし、メーテルリンクの『青い鳥』のように、コミュニティの幸せを積分することはできるだろう。

そのために、町を、森を散歩しよう。散歩は、都市を漂流するどの人間にとつても幸せになるための第一歩であることには間違いない。

# 川を蘇らせよう 世界の動き

## 「世界水ビジョン」 「川と水委員会」について



尾田 榮章 (おだ・ひであき)

世界水ビジョン・  
川と水委員会事務局長

現在「世界水ビジョン」の策定に向けて、世界水ビジョン・ユニットを中心に、世界の水に関する組織・機関を巻き込みつつ大車輪で作業が進んでいる。「世界水ビジョン」は今年三月にオランダのハーグで開かれる第二回「世界水フォーラム」に提出され、そこで議論されることになる。フォーラムでは世界の水関係閣僚会議も予定されており、ここでも討議が積み重ねられることになる。予定通り作業が進むと、今年三月には、二十一世紀に向けての水に関するメッセージが、「世界水フォーラム」から世界に向けて発せられることになる。そして閣僚会議の成果は、何らかの宣言の形に取りまとめられ、公表されることになるだろう。国連総会にもオランダ政府から報告され、国際的な取り組みが始まるものと期待される。

このような動きは、従来の世界の水問題に対する取り組みに対する反省から始まった。莫大な額の投資が水部門に対してなされてきたにもかかわらず、水に関する問題は少しも解決されないばかりか、かえって拡大の傾向にすらある。これは、従来の投資が主としてプロジェクト毎に二国間援助の形でなされ、地球規模での全体的な視点に欠けていたからではないか、という反省である。

一連の動きを、私自身の体験したことを中心にご紹介したい。その方がより具体的に問題を把握してもらえると考えるからである。それだけに偏ったものになる恐れも多い。最後に掲げる文献をご参照いただき、より全体的な見方をお持ちいただけると幸いである。

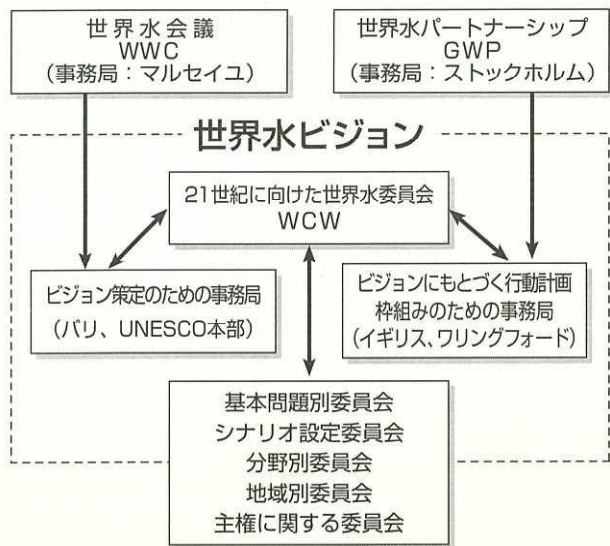
### 一、「世界水ビジョン」策定に向けて

「世界水ビジョン」そのものが動き出したのは、そんなに古いことではない。どうも一九九五年、世銀のセラゲルディン副総裁の「二十世紀の戦争は石油が原因であったが、二十一世紀には水による国際紛争が起こるであろう」との言葉辺りが新しい動きの引き金を引いたようだ。

一九九六年には、世界水会議(WWC)、地球水協力機構(GWP)と世界の水問題をリードするNGOが相次いで設立されているが、この何れにもセラゲルディン副総裁は深く関わっ







ている。WWCの理事であり、GWPの議長でもある。彼は、ユネスコの事務総長選挙では日本が押す松浦前駐仏大使に破れたが、出身のエジプト政府の推薦もないままに相当数の票数を獲得した人物で、国際社会への影響力には大きなものがある。現在の水を巡る動きでは、彼の言動に世界の注目が集まっているといって過言ではない。

そんななか、一九九七年に、国連総会の要請を受けてモロッコのマラケッシュで第一回「世界水フォーラム」が開催され、世界水会議に対し「生命と環境のための世界水ビジョン」作成

#### 世界水会議 (World Water Council ; WWC)

世界銀行(WB)、国際水資源学会(IWRA)など、水に関する国際機関や国際学会等が中心となり、水に関わる国際政策の検討会などを行うシンクタンクとして設立された組織です。

#### 世界水パートナーシップ (Global Water Partnership ; GWP)

世界銀行(WB)、国連開発計画(UNDP)、スウェーデン国際開発庁(SIDA)などの資金提供機関が協調し、より効果的な国際的開発援助を行うことを目指して設立された組織です。

#### 21世紀に向けた世界水委員会 (World Commission on Water for 21st Century ; WCW)

「21世紀に向けた世界水ビジョン」を策定するために設立された組織で、21人のメンバーからなる委員会のもと、世界の専門家らが協力して活動を行っています。

図-1 世界水ビジョンをとりまく流れ

を要請したのである。これを受けWWCは、ビジョン作成に向けて「二十一世紀世界水委員会(WCW)」を組織した。ここでもセラゲルディン副総裁は委員長を務めている。

なお実施部隊として世界水ビジョン・ユニットが置かれているが、この事務局長を務めるのが元世銀副総裁のコスグロブ氏である。政治の世界にも携わった経験をお持ちだが、極めて実直、誠実な方で、着実な作業振りに世界の信頼を集めている。この人なしではここまで到底たどり着けなかったものと思われる。現在日本からは建設省職員の岡積君がユニットに派遣さ

れており、氏の右腕としての活躍が期待される。

なお日本からの参加については、WWC理事に高橋裕東大名誉教授、WCWの委員に高橋一生国際開発研究センター所長が参加され、それぞれ重要な働きをされている。

なお世界水ビジョンを取り巻く動きを取りまとめると図-1のようになる。ビジョンそのものを作成する流れをWWC、ビジョンを実施に移すための流れをGWPが担っているが、それぞれはお互いに関係している。このためWWCとGWPは、共同作業のような形で、お互いに協力しつつ、ある意味では微妙に反発しつつ策定作業を進めている。

## 二、パネル会合「制度委員会」

こんな動きに、私自身が関わるようになったのは、「世界水ビジョン」策定の作業がある程度進んだ一昨年(平成一〇年)の十二月からである。

先ず昨年の二月、パリで開かれた制度面に関するパネルに出席した。このパネルは、世界の水問題を水問題の専門家以外の目から見よう、との趣旨で持たれたものだ。しかしこの時には、世界水ビジョン策定の全体の流れもよくわからないままの参加であった。

アメリカ、メキシコ、ガーナ、カナダ、インド等からの政治家、学者、研究者等の多様な参加者に混じって、水問題を取り巻く幅広い問題



の議論に加わった。発言のエッセンスをコスグロープ氏が自ら大きな紙に書き取り、部屋の壁に貼り出す。みるみる壁が紙で埋まっていく。

二日間、朝から晩まで中身の濃い議論が続く。議論の幅が極めて広く、人口問題から女性（ジエンダー）の問題、開発国と発展途上国の問題等、水政策に絡みつつあつちこつちに跳びながら展開する。特に最初の日には戸惑いもあり、また色んな国の、それぞれ特色のある英語に耳が慣れず、会議が終わるや否やホテルに直行、直ぐに寝てしまう、という始末だった。それでも二日目には何とか慣れ、積極的に発言できるようになった。慣れの問題のようだ。

議論をしていてどうしても腑に落ちなかったことがあつた。議論が水不足問題に限られていたのだ。「水」問題という以上当然もう一つの水問題、水の過剰、洪水問題も大事なはずなのに、すっぱりと抜け落ちていく。そして水不足問題を論じるにしても、個別の水問題、例えば飲料水の不足、を単独に論じる傾向にあり、水問題を総合的に見る視点に欠けているように感じた。

そんなこともあり、この点についてしばしば言及するようになった。特に威力があつたのは、姫川を襲った平成七年洪水の出水前後の比較写真である。川では水だけでなく土砂が流れ、災害を引き起こすが、その一方平坦な土地を創り出している、という事実である。この面の視点

を欠くと、水問題を捉える目が歪んでしまうのではないか、という問題提起である。どこまでこちらの言わんとしたことが通じたかはわからないが、写真が強烈な印象を与えたことだけは確かである。まさに百聞は一見に如かずであつた。

### 三、「川と水委員会」の発足について

その後も世界水ビジョンに関する国際会議に出る度に、「水と人との関係を、河川流域を通じて捉えること」の重要性が認識されていないことへの苛立ちを感じた。

そんな中、新しい部門別委員会を日本が担当して開いてはどうかという動きが日本側から出てきた。世界水ビジョン・ユニットは、新たな動きが加わることは大賛成である。といって特別な予算があるわけではなく、自前で勝手にどんな活動してくれるのは大歓迎、というだけではあるが。

それならというので生まれたのが、「川と水委員会」である。法的な資格、特別の組織があるわけではない。専用の事務所があるわけでもなく、国際建設技術協会が業務の一環として仕事に当たり、事務局長の私はパート・タイマーである。そして今までこの動きに関わってこられた大学、研究機関の方々に加え、建設省をはじめとする関係省庁の職員が一緒になって頭を使い、汗をかくてくださった。そんな体勢で動いている、極めて曖昧な存在である。

考えてみると、世界水ビジョン・ユニット自体がそうで、ユネスコ本部に間借りをして事務局を構えているが、その組織は一種のNGOである。この組織に北欧をはじめとする国々が、それぞれの国の海外援助組織等を通して資金提供しているのだ。

どうもこの頃の国際的な組織は、従来のような国連あるいは既設の国際機関を中心にした、がっしりした永続的な組織としてではなく、明確な目的のもと、時期を限ってNGO型でつくる、というのが流行のようだ。身軽に、臨機応変に動ける効率的な組織を求めているからだ。またこうした組織だと、既存の国際的な組織、機構を横につなぐ効用を持つことになり、極めて便利だ。

その意味では、「川と水委員会」もそんな役割を日本国内で担っているとも言える。大きくは、産（主としてコンサルタント）・官（水関連各省）・学（水関連関係大学、関係学部）の連携、小さくはそれぞれのセクション内の連携なしには作業が進まず、否応なく縁結び役を果たすことになる。

水の分野が各省に分かれて所掌され横の連携が薄いことは、世界各国どこをとっても同じで、これは水を巡る大きな問題点の一つである。「川と水委員会」のような柔らかなNGOを国内の行政を進める場につくることがこの解決策となり得るかも知れない。



#### 四、「川と水委員会」準備会合

「川と水委員会」の最初の活動として、先ずこの委員会での活動内容を検討するための「準備会合」を持つことにした。

「準備会合」といつても、アジアを中心に世界からの七名（世界水ビジョン・ユニット（UNESCO）、国際水理学会（IAHR）、SEATAC、中国、韓国、マレーシア、インドネシア）に加え、日本からは八名の参加を得て、一九九九年七月七・八日の二日にわたって開催した。参加者全員から、それぞれがこの委員会に期待すること等の発表をしてもらい、それをもとに更に議論を積み重ねて課題の整理を行った。

挑戦すべき検討課題を3Fコンセプト（Focus（対象範囲）、Factors（個別対象）、Frontiers（戦略））に分類し、出来るだけ漏れのないように注意しつつまとめ上げた。この作業は、産・官・学からなるシエルパ役の若手が支えてくれた。議論を通じて出てくるキー・ワードを拾い上げ、分類する作業である。水の分野全体に対する理解が要することは勿論、人の話を漏らさず聞くという根気の要る仕事である。彼等なしではこの会合が成り立たなかったことは確かだ。この結果、川と水委員会で取り扱うべき範囲が大変明確になった。そしてこの準備会合に参加した人達の間で、共通の問題意識を持つこと

が出来たことは何にも代え難い成果であった。

#### 五、「川と水・東京会議」

一九九九年十一月一・二・三日、準備会合の成果をもとに「川と水・東京会議」が持たれた。会議には、二十一名の海外からの参加者に加え、日本からは日本自然保護協会等のNGO代表も加えた十六名が参加した。

会議は全体会議と四つの分科会で構成した。この四つの分科会のテーマは、準備会合で整理された3Fコンセプトを踏まえて①健全で持続可能な水循環を求めて②洪水と渇水の関係③河川環境と人間④制度と住民参加、と定めた。

初日の全体会合では、中山建設大臣の開会挨拶/WVUのコスグロブ氏によるビジョン策定状況に関する報告/GWPのジョン・クラウゼン氏による「ビジョンから行動への枠組みづくり」に関する状況報告/ディホーン氏による「二〇〇〇年三月ハーク世界水フォーラム」へのお誘いを兼ねての進行状況報告、に引き続き「川と水」事務局長として私の方から次の四点について説明した。

○「川と水」委員会の設立理由

○今日までの経緯

○会議の目的

○会議の進め方

会議の主旨を理解してもらうにはこれを見て頂くのが最も手っ取り早い。重複するところは

出来るだけ避け、要旨を再録しておく。

#### 1 「川と水」委員会の設立理由

設立理由には、三点があげられる。

先ず一点目は、現存の三つの大きな部門別委員会、「水と人（飲料水）」、「水と食料（主として灌漑と排水）」、「水と環境」は独立ではなく、水不足状態の時には競合すること。そしてこれらの部門間を調整し、総合化する場が『河川流域』であること。

二点目は、水不足はいうまでもなく最重要課題であるが、一方水過剰による問題、洪水も極めて重要な課題であること。従来、洪水問題は地球規模の問題としては取り上げられず無視されがちであったが、最近では洪水被害は世界中で起こっており、世界全体の問題となりつつあること。更に図1-2に示すように、洪水による被害者が、地球規模の気候変動、急速な都市化、森林の伐採等に加え、何よりも爆発的に増えている人口が河川氾濫域へ集中せざるを得ないことによりますます増大していること。現在の年平均洪水被害者数は一億三〇〇〇万人で、二〇年前に比較して約七倍にも増えている。

三点目は、水の不足の問題と過剰の問題はお互いに関連していること。従来から大洪水が解消したのは、洪水を引き起こすような大雨によること。例えば昭和五三年の福岡渇水では、足かけ二年、二八七日に及んだ大洪水が解消したのは、福岡市内で洪水被害をもたらした大雨に

よってであった。

## 2 今日までの経緯

「世界水ビジョン」策定に直接日本が関わるようになったのは、一昨年の十二月からであるが、日本人にとっては、先に述べたような川と人との関係、「水と人との関係を、大きな水循環の中で、河川流域を場として考える」は肌身を通して自然に感得できる事柄である。

このため、一九六四年には河川を一貫した計画のもとに整備する体系を河川法の中に確立しており、また一九九七年には、その河川法を改正し、「河川環境の整備と保全」を河川管理の目的に加え、治水、利水と相まって総合的に管理する体系を確立したところである。このような自然的、歴史的背景を考えると、日本が世界水ビジョンづくりに積極的に参加することは世界の水問題解決に向けて有用だと判断したこと。

その第一段として開催した「準備会合」については先に述べたとおりである。

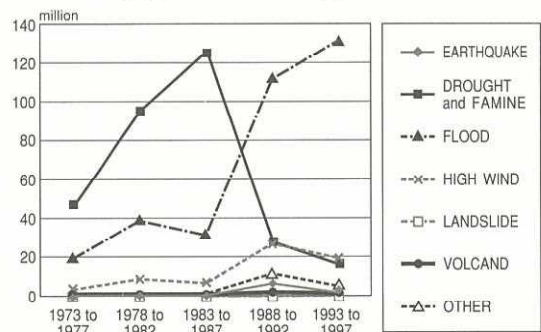
## 3 会議の目的

具体的には三つの目的がある。

- (一) 多様な「川と人の関係」そのものを個々の河川の特性を踏まえつつ検討し、望ましい河川マネージメントシステムを構築すること。
- (二) 世界水ビジョンに分科会での成果を反映させること。

(三) 世界水フォーラム、閣僚会議に全体会議の成果を反映させること。

Annual average number of people reported Affected by type of disaster and by period (1973 to 1997)



Source: CRED, "World Disasters Report 1999" Sector Consultation "Water in Rivers"

図-2 自然災害被害者数の推移

## 4 会議の進め方

上記の目的を達するために、各分科会では最終的に五つのキーワードを抽出し、議論を整理すること。そして最後の全体会議では、閣僚会議に提案できるように五つのテーマ、メッセージに集約すること。

会議は実りのある成果をあげたものと自負している。参加者からも高い評価を得たところである。

最終的なメッセージは、現在「Water」を使って取りまとめ中であるが、以下のようなものになると考えている。

・われわれの川に対する理解を深め、関心を高

めよう

・河川流域を単位として総合的、統合的な取り組みをしよう

・われわれの「河川環境」を大事にしよう

・世界の川は病んでいる。今直ぐ、より効果的な水と土地の利用を進めて川を救おう。

「世界の川は病んでいる」とのメッセージには悲痛なものがある。

今まで人類は川を苛めつつその発展を図ってきた。人類発展の結果として現在の川の姿がある。水がない川、汚れた水が流れる川、蓋をされてしまいい地上から姿を隠した川、そんなわれわれの川を救おう。そのために今直ちに行動を起こそうというのがメッセージである。日本の川も例外ではあり得ない。どうこの問題に取り組んでいくか、われわれの姿勢が問われている。

## おわりに

「世界水ビジョン」は、ゴールではなく、出発点でしかない。私たちの取り組みはまさにスタートラインについていたところである。これから世界の人達と手を携えて世界の川が今一度健全な姿に戻るように取り組んでいきたい。一緒に歩いていただくとこんなふうにうれしいことはない。

参考文献(例えば 雑誌「河川」NO.68 特集「世界の水事情」平成十一年九月号)





澤登信子 (さわのぼり・のぶこ)  
ソーシャルマーケティングプロデューサー

# 21世紀社会 への視点

—自然との一体感を—

## 二十一世紀は母系・女性社会

すでに五、六年前になるが、三〇代後半の女性二〇人を対象に、百年後の家庭がどの様になっているか、アンケート調査を行った。回答者は、ごく普通の都市型の暮らしをしている人々である。

彼女たちの多くは、母系社会、女性社会、通い婚が文化として定着している生活模様をイメージしていたのである。日本の伝統的なしつとりとした文化に加え、乾いた文化を、個性的に装ったヤングママを含めた新しい女性たちが築いていくだろう。

一方、生活基盤としては、ハイテクやバイオの技術が活かされた生活環境がさらに高度に出来上がっていく。肉体労働はさらに軽減化され、性別による役割分担ではなく、個人に対応して、仕事内容で要求する固有の関係に基づいて仕事することが日常的なことになっているに違いない。一九九九年に「男女共同参画社会」の基本法が施行され、男女の役割の壁はすでに法的には崩壊した。

今日ではまだ少数派であるが、子育てや介護に係わる男性の姿は序々に増し、多くの男性はごく普通の事として、この仕事を果たすだろう。少子高齢社会は、個人の生活から、一家庭の

中から、少しずつ姿を変えながら、社会は形づくられていく。

個人生活や家庭は一断片の集積により出来ているのではなく、元来、相対的な相関関係よりなりたっている。縦割を基準としたピラミッド型の社会システムや、産業社会がリードする社会文化は、新しい家庭やコミュニティにはもうそぐわなくなっている。

男性軸で考えられていた二〇世紀の自然観、人間観、価値観そして社会システムを意識的に変革する時期を社会は迎えている。

## 個人の成長や充足は、 共感と共生を核に

大上段に構えた考え方は、ともすると自らを枠外に置いた議論になり易い。種としての人間の進化、発展を語り合ってきたが、個人としての成長や充足は、どうであっただろうか。

情報はオープンで多様な双方向コミュニケーションが基本である。今までの上令下達の一方向の情報のあり様が問われる。対等な個人間のコミュニケーションを重要視する社会では、共感や共生がキーワードになる。

私たちは社会システムの一部分として生きる以前に、個人として個性を活かしたい欲望が本来は誰にもあるものである。

まだ標準家庭と云う幻想に捕らわれていない

か。(両親と子供)が居る家庭は全世帯者数の半数をも占めていない。時代はもう、個人を基本単位としたコミュニケーションによる新しい人間関係を基本としている。

個人を原単位として新しい人間関係は、地域共同体としての住民参加の街づくりや地域の活性化にも影響を与える。それだけでなく、経済活動としての企業のあり方、役割も問われている。同時に消費者である生活者も消費することよりも、自分を取り戻すために、生産し、創造することが大切になってくる。

### 等身大の暮らし

個人の暮らしに必要な機能を外部化して久しい。ふと気がつくとき足元の生活は空洞化し、生活の実感が欠如して、不安、不満に捕らわれてきている。個人的な暮らしの体験や技術は退化し、いざというときに、知恵が廻らなくなってしまう。なんと、か細い生活者になってしまったことか。

社会のサイズとリズムの変化が加速度を増している今日では、人はどうしても自分を見失いがちになる。心身は緊張し、張りつめられた神経は弾力性を失い、ふくよかさのない思考や行動に陥ってしまう。自信を失い、他を受け入れる余裕がなくなり、否定の思考に支配されている。

る。

そこで、暮らしを見直し、無理のない等身大の暮らし方やビジネスに、人々は注目し始めた。市民起業家が台頭し、コミュニティビジネスが盛んとなっている。

主婦、高齢者、若者たちが、こだわりをもって、好きなことを、社会に提案し始めた。人々の役に立っている、と云った実感を大切に、無理をせず、出来ることから様々な試みがなされている。しかも、小さな試みは、ビジネス連鎖を起こし、今までにはみられなかった相互扶助の関係が生れている。

生態系的思考と行動の視点で、新社会システムが築かれつつある。

### 新たな時代へ 幸せの在処

〈森林〉をキーワードとして様々な活動を、今、私は展開している。

都市の人たちは、実際に森の国へ出かけて行き、植樹などを行いながら、森林体験をしている。

地方の林業家たちは、東京に来て、様々な行政関係者や専門家たちと何度も意見を交換して、その都度問題意識を新たにしている。

まぎれもなく、私たちは生き物である。イノチを核とした生命連鎖が生活環境には不可欠である。しかし、その当たり前のことが、都市に

住む人たちにとっては、実感出来ない。

森林の中に入ると、誰でも気持ちの良さを感ずる。この快の力は計り知れない作用を私たちにもたらす。良い気分の時には心は開き、その場を受け入れ易くなる。感じ合ひ、確かめ合ひながら、考えが融合され、新しいコト、モノが誕生する。

健康に育てられた食材は文句無しに美味しい。美しいモノや風景に出会うと、自然に心はなごみ、人々の心は満足感を得るようになってくる。

親しい仲間との集いや、好きなことに没頭している時は、時の経つのを忘れてしまう。

警戒心や競争心の連続では身がもたない。現代の都市住民はストレスをため、心身をリラックサ出来ない。柔らかな心身から夢や想いのエネルギーは湧いてくるのに。

\*

新しい時代の幸せ感は、他人に優位にたつことでは生じるのではない。人々の個性やその考えや様々な地域の特性を尊重し、認め合うことが楽しいのである。

会社、行政、地域、……などの枠組みから離れて、自分の居どころがある〈森林〉の中に多くの人たちが集まり、共感と共感覚を共有し始めた。

この〈森林〉のチームを主宰するのは、女性たちである。



## 幸せの在処としての農山村

# じよんのび高柳



### ■会社を辞める若者

大学新卒で会社に就職し、三年以内に辞める人が三二%にもなるという実態が、一昨年一〇月のNHKの特集で放送された。原因はさまざまであるが、上司を見て、描いていたイメージとのギャップが大きく失望する人が多い。怒られないよう気にしたり、マイナスがないように冒険をしない姿がっかりしている。自分の意見が言えず、妥協して生きる姿はとも幸せには見えないと、辞めた若者たちは話す。

専門性を活かした充実感のある人生や、他人の役に立つような手応えのある人生を望む若い人が多いことは、将来への社会変化を予感させる。会社は個人の才能を見つけてくれない。若者は自分の世界、自分しかできない仕事、自分のしたい世界、好きな世界を探す。安定したサラリーマン生活から能力を試すリスクのある人生を、自由に選択する傾向が仕事の世界にも出てきた。

その一方、人生の意義は仕事だけなのだろう

か。地域社会とは、自分とは何なのかという問いかけ、仕事とプライベート、楽しく充実した人生、他人の中に自分の生き方の意味や意義を見つけるボランティア志向は、個人と他人との関係、地域社会関係を変えていくであろう。

### ■農山村に目をむける

NHKの特集では、会社を辞めた若者が農業に精出している姿が印象的であったが、最近、農山村に生きがいを求める若者の姿が目立つようになってきた。農山村の持ついる地域への愛着心や人情が基本となった共同性が、若者には新鮮に映ってきたのではないだろうか。

全国を歩くと、行政が盛んに新しい大型スポーツ施設や高級文化施設などを造るのを見かけるが、地域の魅力の基本は土の香りがぶーんとするたくましい人間の発見であり、彼らがつくる地域社会のあり方である。地域の個性は地域に生きる者のアイデンティティである。それにこだわり続けることで住民に忍耐力がつき、精神は安定する。共有するべきアイデンティティ



## 鈴木輝隆

(すずき・てるたか)

日本上流文化圏研究所  
常任理事

を発見し、具体的な地域経済生活を忍耐強く築き上げることが、住民の幸せにつながると思う。戦後の高度成長政策は「田舎」を疲弊させ、過疎化を推進させた。「都市」は消費文明が光り輝く場所、「田舎」は高齢化の進む暗い場所というイメージを植えた。バブル最盛期には、農山村は「都市化」「近代化」へと都市のモダニズムを指向し、「農村」に住んでいながら「都市文化」に憧れ、熱望していった。こうした中で、現在、農山村は過疎と高齢化に直撃され崩壊寸前のように見えるが、そうしたところばかりではない。たくましく、しかも表情が明るい農山村も存在している。

### ■新潟県高柳町

幸せの在処としての「山村暮らし」を、新潟県高柳町を例に話してみたい。

高柳町は人口二、六〇〇人、典型的な中山間地域で、一〇年ほど前までは新潟県で一番の過疎地域であった。しかしその後、U・イターン者もここ数年で三〇人を超え、現在、人口は安



定してきている。「じよんのび」を概念としてまちづくりを進め一〇年になる。訪ねてくる人は年間二八万人、直接的な経済波及効果は一〇億円を超えている。私は高柳町に通いだして五年になるが、住民の意識改革は進み、充実感あふれる確かな暮らしが生まれている。

高柳町のまちづくりのコンセプトである「じよんのび」とは「ゆつたりのんびりして、芯から心地いい」というお国言葉で、「気持ちのいいの最上級」を表す言葉である。「じよんのび」をイマジネーションで展開すると、暮らしの原型から受ける「心地よさ」、農業の場の「確かさ」、自然と向かい合っている「気持ちよさ」、村人の「人間らしさ」、風土の中ではぐくまれた「智慧の豊かさ」、暮らしと風景が一体となった「景観の気持ちよさ」、小さいことの「優しさ」。日本語ではあるが世界の人を幸せにで

きる「じよんのび」、日本語を超えた響きのいい言葉である。

日本人が忘れてしまった豊かさ、ひよつとしたら、もう取り戻すことができないかもしれないものを「じよんのび」という言葉で復活させたいと、高知のデザイナー・梅原真さんが「じよんのび」のポスター制作に挑戦している。その過程で、昭和五六年から平成元年まで高柳を撮り続けていたアマチュア写真家、米山孝志さんの作品が多数発見された。モノクロの写真は、じっくり時間をかけ、密度の高いかやぶきの荻らしぶりをしっかりと捉えている。高柳町の荻ノ島には日本でかやぶき環状集落が唯一残っていて、特に豪雪の中のかやぶき風景は日本人の魂を震わせてやまない。

米山さんの作品は、現在ではほとんど見られない超豪雪風景、そしてその厳しい生活の中で、時代を超えてとても明るく豊かに暮らす人々の表情をとらえている(写真)。

見るものは思わず、みな息を詰まらせた。なんと幸せな人たちではないか。しかし、米山さんは高柳町の近代化が進み、民家が減少したのを機にかやぶきの撮影活動を止め、平成三年から越後駒ヶ岳の番人となり、山岳写真を撮り、版画を彫った



■「じよんのび高柳」住民のオールラウンドヒストリー

どこに行ったらこれからの幸せな生き方のヒントが見つかるのだろうか。高柳町の住民からその精神や生き方を探してみよう。早稲田大学の後藤春彦研究室が、高柳の住民二〇人に行ったインタビューから「じよんのび」な生き方を学んでみたい。

●イベントには欠かせない郵便局員の石塚和男さん：「農作物をお金にしようと考えたことがなかった。高柳のいいところは人間性、都会にはない近所づきあいではないだろうか」

●野菜を生産直売する「やまびこの会」の中心的存在の石塚徳一さん：「高柳は生活の上では苦しいかもしれ



れないが、生きていく上では楽しい。一度は捨てた耕地も耕作して生きてくる。畑作は面白い。都会と違って場所が悪いだけに、共同の精神がある。先を考えると寂しいが、でも元気はいい。人間が率直で人情味が豊かだ。これから歳をとっていくから、なおさら助け合いが必要だ」

●「農」を真剣に考えている農協職員の小林専吉さん：「都市には農業志向があるが、田舎には未だに都市志向がある。都市と農村では生活環境が違いすぎている。その人の「適齢・適作」を考えてあげなくてはいい。年寄りには地元の情報として全ての知識がつまっているのだから大事にしないとだめ。過疎化になってきているという焦りが自分にはある。他の人ががんばってもらいたいから、まず自分ががんばるのだ」

●「門出かやぶきの里」で心のこもった料理でもてなす春日幸子さん：「かやぶきの里の事業で、少しでもお金が入って、皆が少しでも潤えばそれでいい。みんな助け合ってやっている。食べ物には地元のものを使う。自分たち独自のものを持たなくてはだめ、まねすればいいわけではない。温かい気持ちを持って、客と話をすることが一番大事」

●紙漉き職人で地域づくりの中心的な役割を果たす小林康男さん：「紙を作るのは米を作るのと一緒、自然から作るものは自然の法則にのっとることだ。春夏秋冬の作業をやる、自然のことが少しは分かるようになる。その機会をみんなに与えている。失敗もまた先生。夢みたいなことやらないとだめ、いつまでたっても条件整備ばかりではだめだと思った。要は他力本願ではなく、地域の中でやるということ」

●お酒をこよなく愛す「わらじの会」のリーダー重野好正さん：「わらじの会」は「かごに乗る人、かつぐ人、



荻ノ島地区のかやぶき環状集落

そのまたわらじを作る人」の一番もとの役割をすべく、この名前をつけた。参加は強制ではない。出られるときに出る。飲むときにはほとんど集まる。別にがんばっているわけではない。人を楽しませるのではなく、自分たちが楽しむことが重要だ。楽しんでいけば人も楽しくなるのではない。仲間づくりが大切。お酒を飲むと本音で話れるし、面白いアイデアも出てくる。上下の関係なく、飲んで話すのが大切。楽しくしているとみんな楽しくなる」

●じよんのび村の建設に携わり、高柳に移り住んだ富井富士子さん：「素朴な高柳の人々と接し、五感で何か落ち着くものを感じる。仕事と生活圏が同じである高柳の人々や風土にほだされて、一ヶ月後には「今までの自分は何だったろう」と知らないうちに涙がこみ上げてしまうほどになった。必死でがんばれば必ず手を

貸してくれるような親切な高柳住民と接すれば接するほど、ここに残りたい気持ちは強くなっていった。すぐに結果を求め、目標を手に入れたら、どうしていいのかわからなくなる都会の生活にくらべ、太陽とともに生活し、穏やかに自然と調和をとって暮らす高柳の生活が豊かで、土地の人が知らず知らず身に付けてきたものがすばらしいのだと言ってあげたい。目に見えるかやぶきの家や棚田、里山、農村の風景より何よりも人を感動させるのは、人間の生き様であり、心だと思ふ」

●「荻ノ島かやぶきの里」のもてなし上手な中西ユリイさん：「みんな早寝早起き、だから時間がたっぷりある。私たちの世代は、座ってあれば楽というのではなくて、体を動かしていれば気持ちがいい。働くことが喜び、趣味、生き甲斐。かやぶきの高い屋根、鍵をかける、大の字で寝ることを考えると、都会などくらべてここに住んでよかったと思える」

●経団連に勤めたことがある門出ふるさと村組合副会長、七五歳の中村直平さん：「門出の特徴として若手に対して寛容な先輩が多い。若者がやるうとしていることをみんな温かく見守っている。老人も元気だ。仮に失敗しても経験することが大事」

●全国で初めてゼンマイの畑栽培をした「農」によるまちづくりを考えている中村藤栄さん：「農業というものには水・土・太陽でできるすばらしいもので、半永久的にできるものである。農が表にでてくるのは二〇年くらい先になるだろう。農業は見直され、採算性のとれる農業になっているだろう。夢としては、二週間だけゼンマイ採りで働いて、後はのんびりしたい」

●田舎暮らしに惹かれて大阪から高柳にイターンし、大人気の天然酵母パン屋「小麦」を創業した乗岡元孝さ





栃ヶ原地区の棚田

ん：「転入者に対する高柳の人々の受け入れはとてもいい。区別はするけれど差別はしない。自分たちの生活の中にもっとゆるやかで、気軽な遊び仲間のようなつながりが大切だと思う。そんな集まりの中からこのこと、公のこと、大きいこと、小さいことを問わない前向きな考え方や発言が意味ある」

●自動車修理工場を経営する何でも引き受けてしまう平沢文康さん：「じよんのび」の次というのは見つからないんじゃない。何かを探している過程が村おこしだから、頂上に立つたら目的がなくなってしまう。町を活性化させていく活動はボランティアだから、仕事と家庭との両立が大変。地域づくりは生き甲斐でもなんでもない。家族も趣味も地域づくりも楽しみながら、逃れられない趣味。誰かがしゃばって地域づくりのリーダーになっているわけではない。一人一人

がリーダー。リーダーが心細いからみんなで助ける」

●ふるさと開発協議会の会長を務めた門出郵便局長の村田澄雄さん：「町全体の案内人がいないので、ボランティアで案内人をやろうと思っている。高柳の町に込められている歴史や思いを語りたい。子どものうちから教育、地域学習が必要だし、親は自分の村のいいところについて積極的に発言する必要がある。親の世代は「高柳」といっていいじめられたが、いまは「じよんのび」と言えるようになったことが自信につながっている」

●東京で染め物の修行をしていて、小林康男さんのもとで紙漉きを始めた村田仙三さん：「和紙職人の小林さんの、人を安心させる人柄にも惹かれた。また、民具を現役で使用していることにも感激した。高柳は外からきた人に手をさしのべるやさしさがあり、自分もけ込みやすかった。高柳の人は失敗を許してくれる。一口根性にかけてた人でも楽に仕事ができる」

●門出ふるさと村組合長の矢代保治さん：「かやぶきの里のテーマは『田舎の流儀』『かやぶきの風情にこだわる』『日本の田舎を残す』の三つ。当然食事は九割自給している。ここで働く上で三つの条件がある。『普段の感じでのたしなみ程度の化粧』と『普段着』そして『地元言葉』、これが田舎の流儀というものだ」

●自動車メーカーに勤めていたがUターン、「きつねの夜祭り」の立役者・米山秀基さん：「どうしようもなくせつない思いしていると結局助けてくれる。こつちが必死になって苦労していると、だんだん協力してくれる人がでてきて、参加することでだんだん楽しむようになり、最近やっと好意的に受け入れてくれるようになった。結局は人の『心と情』だと思っ」

こうした声から伝わってくるのは、息苦しい競争時代にあつて、今時、高柳町は不思議に人情があるまちだということではないだろうか。このまちの住民の意識改革は、昔からあつた人情と共有共働の精神に響きのいい言葉「じよんのび」が結びつくことから始まった。地域の精神を象徴するこの一語が、消えかかった地域遺産を呼び覚まし、人の幸せを祈る「やさしさ」や「楽しさ」を生活の根幹に根付かせた。精神生活に安心や癒しをもたらすノウハウが、小さな山村に存在している。

#### ■最後に

高柳は田舎そのものがテーマだ。幸せを追求する個人的なライフスタイル論にとどまらず、精神価値を基軸として新しい地域社会の構築が始まったのである。この春、「これが田舎だ」という本物の自信を持つために、「じよんのび研究所」を設立する予定である。

今後の展開は、景観と生活文化を磨いていくことによって、さらに「じよんのび力」がつき、住民の半分くらいが「じよんのびなNPO」として幸せに暮らせたら理想的だと思ふ。高柳では、その年の最高の「じよんのび人」を「マン・オブ・ザ・イヤー」として顕彰する予定である。じよんのび人による「じよんのび研究所」が楽しい情報発信基地や思索の場となり、総合的な新しい山村地域システムを考案し、次世代に大きな地域資産を残していくことを願っている。





出雲日御碕灯台（島根県）

1903（明治36）年4月1日初点。現在も日本で第一位の高さを誇る石造の灯台。



神子元島灯台（静岡県下田市）

1870（明治3）年11月11日初点。石造として当時の形態をそのままに残す日本で最古の灯台。



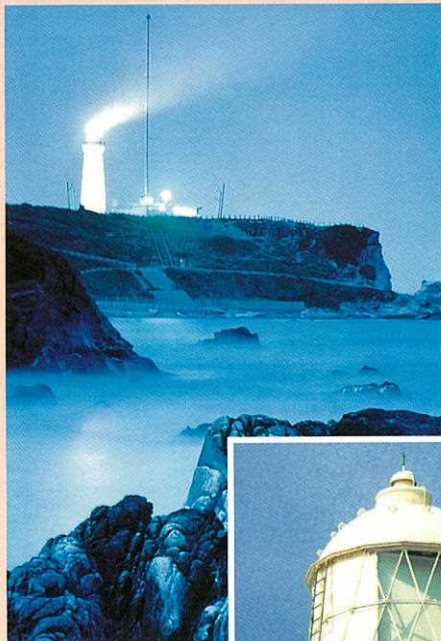
# 「世界灯台100選」に選出された日本の灯台

写真所蔵・社団法人燈光会



美保関灯台（島根県八束郡美保関町）

1898（明治31）年11月8日初点。旧吏員退息所は当時の形態をそのままに残し、レストハウスとして使用。



犬吠埼灯台

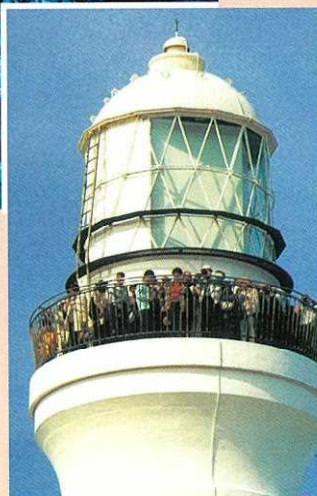
（千葉県銚子市）

1874年（明治7）年11月15日初点。レンガ造として当時の形態をそのままに残す日本で有名な高塔。

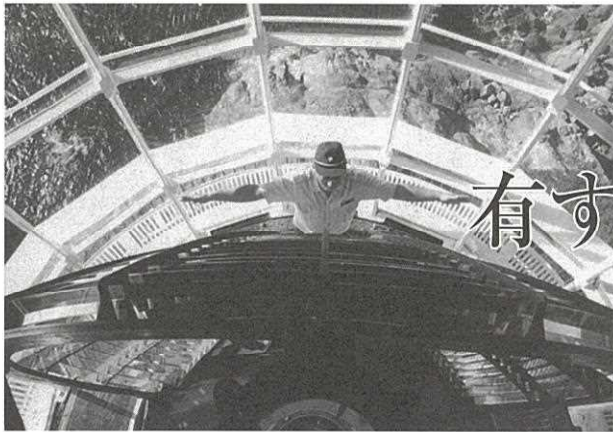


姫埼灯台（新潟県両津市）

1895（明治28）年12月10日初点。鉄造として当時の形態をそのままに残す日本で最古の灯台。







出雲日御碕灯台レンズ（社団法人燈光会所蔵）

# 明治期灯台が 有する価値の評価

澤村勇雄

海上保安庁灯台部工務課主任灯台技術官

## 第4回

### 灯台施設調査委員会

今に現存している明治期に築造された灯台は、既に耐用年数を超過し、更には岬角・海上と厳しい自然環境と相俟って老朽化が進み、構造補強が必要な灯台も数多くあります。

これらは、歴史的価値を有し建造物としての技術的価値が高いものも少なくなく、海上保安庁は、構造補強などの整備に際して適切な保全に資することを目的に、「灯台施設調査委員会」を発足させて、昭和六〇年～六二年の三ヶ年に渡り灯台施設個々に歴史的背景などを明らかにして価値の評価を行っています。

委員会は、故・村松貞治郎博士（当時・東京大学名誉教授）を委員長に建築構造・建築史を担当する建築界、産業考古学の研究者、有識者から構成され次の要目を据えて価値の評価を行っています。

委員会は、灯台施設を他の文化財と比較しての価値評価ではなく広義の文化財として調査を行い、各灯台施設を「A・B・C・D」の各ランクに分類して「灯台施設の価値に関する調査報告書」にまとめています。

調査報告書の巻頭で委員長は「灯台施設はその厳しい用とともに、まことに貴重な人為の証であり、意外なほどに重要な歴史的文化財と言える。」と結ばれ、A・Bに評価された灯台施設

は、特に価値の高い建造物として改修などを行う場合は、有識者・専門家による委員会を設置して、保全に関する工法等を十分に審議して適切な保全を行うこととして結言されています。

### 価値評価の調査要目

#### 日本史的視点

#### ○歴史的事象と関係を持つ灯台

- ・一八六六（慶応二年）五月に幕府と英・仏・米・蘭との間で調印された改税約書によって設置された灯台。

- ・一八六七（慶応三年）四月に大阪において幕府とイギリス公使との間で兵庫開港に備えて設置を約定した灯台。

- ・日清戦争後の台湾経営のため設置した灯台、等。

#### ○歴史的人物と関係を持つ灯台

- ・明治天皇の行幸を仰いだ灯台、頭官の来臨した灯台、灯台建設に生涯をかけた人物の存在、等。

#### 技術史的視点

#### ○イギリス人技術者の雇い入れ

- ・わが国で外国から技術者を呼び、雇い入れたのは灯台が最初のもののひとつである。

#### ○技術導入

- ・当時の灯台技術は、ヨーロッパでも最先端を行くものであったが、これをイギリス人技



術者が持ってきた。

### ○技術修得

・明治一三年中に外国人技術者はすべて解雇されたが、その後も日本人の手によって優れた灯台が建設された。東京大学でも鉄道と共に灯台について教えた。

### ○技術の波及

・コンクリートの技術は、灯台によって第一歩を印した。

### ○渡来品

・灯ろう、レンズ、光源、機械装置等が輸入されたが、現在ではもう造られていない技術遺産も多い。

### 土木・建築史的視点

#### ○材料面

・灯台用として苦心の末、良質のレンガが焼成された。コンクリート、鋼材、石材、木材等が夫々の特長を生かして使用された。

#### ○設計面

・イギリスのスチブンスンの基本設計に基づくプラントンによる設計。  
・洋風の意匠、美観、洋風官舎、付属舎、洋風のデザインル。  
・小屋組、精緻な螺旋階段、等。

#### ○施工面

・レンガ、石などの組積法、波・風等を克服しての難工事の施工、関東大地震などに耐えた謎、等。

### 航海史的視点

○洋式灯台建設の端緒は、外国船の利用が目的であったが、わが国の貿易の進展に伴う邦船が利用するための灯台等の建設が進み、現在でも機能している事実。

○海難と灯台、最短で安全な航路の選択と灯台、等。

### 生活文化史的視点

○工事監督、灯明番等として灯台に滞在した外国人の生活を通じての日本人に対する影響、地元民の外国に関する知識の吸収。  
地域社会の資産としての視点

○心に安らぎを感じさせる眺望、地域のシンボルとして観光資源の灯台。灯台またはその近傍にまつわる物語と関連づけての親近性。

※評価基準

Aランク・特に貴重な施設であり、改修に当たっては保全委員会に諮り、改修方法を検討する。

(23基)

Bランク・貴重な施設であり、改修に当たっては可能な限り現形状・材料を変更すること無く必要機能、強度を満足させる改修方法を検討する。保全委員会に諮り、改修方法を検討する。

(10基)

Cランク・A・Bに次いで貴重な施設であり、改修に当たっては原則として可能な限り現状保存を考慮した改修方法を検討する。(15基)

Dランク・Cに次いで貴重な施設であり、改修

に当たっては原形を残している部分の保存について考慮する。(18基)

### 世界における歴史的灯台保存の動向

イギリス、フランスなど西欧諸国には、わが国より古い歴史的灯台が現存し、各国から歴史的・文化財的価値を有する灯台施設を保存する機運が高まりをみせ、平成二年東京で開催された「航路標識整備・管理専門家会議」において、わが国から歴史的、文化財的、学術的にも貴重な灯台施設を適切に保全し後世に残すために、保全の重要性を提起しました。

これによって、各国からも国際航路標識協会（IALA）に歴史的灯台の保全に関するワーキングを設置する提案がなされました。

平成三年九月、東京において第一回の「歴史的灯台の機能維持に関する専門家会議」が開催され、その後IALA専門家会議において、歴史的灯台の保全に関する審議が行われ、平成八年六月に開催された第一五回IALA理事会において「歴史的灯台、航路標識及び関連機器の保存に関するIALA諮問パネル」の設置が承認されています。

平成一〇年六月、「第一四回IALA会議」においてわが国では、「灯台施設調査委員会」が評価したAランク23基を日本の歴史的灯台として紹介し、「灯台施設保全委員会」の審議を

今に現存する明治期灯台の評価ランク(合計66基)

◆評価ランク“B”の灯台 (計10基)

設置年	標識名	所在地	構造区分	設計者	備考
1870	樫野埼灯台	和歌山県	上部：鉄筋コンクリート造 下部：石造	プラント	改税約書
1871	六連島灯台	山口県	石造	プラント	大阪約定
1880	口之津灯台	長崎県	レンガ造		
1896	横浜北水堤灯台	神奈川県	上部：鋼構造 下部：コンクリート造		
1897	屋久島灯台	鹿児島県	レンガ造		
1897	掛塚灯台	静岡県	上部：鋼構造 下部：コンクリート造		
1900	白州灯台	福岡県	上部：鋼構造 下部：石造		
1901	関埼灯台	大分県	鋼構造		
1903	安芸白石灯標	広島県	上部：鋼構造 下部：石造		
1904	姫島灯台	大分県	石造		

◆評価ランク“C”の灯台 (計15基)

設置年	標識名	所在地	構造区分
1881	立石埼灯台	福井県	上部：鉄筋コンクリート造 下部：石造
1893	平磯灯標	兵庫県	コンクリート造
1894	中ノ鼻灯台	広島県	石造
1894	大浜埼灯台	広島県	石造
1894	小佐木島灯台	広島県	石造
1894	大下島灯台	愛媛県	石造
1894	百貫島灯台	愛媛県	石造
1897	上の島灯台	熊本県	石造
1898	寺島灯台	熊本県	上部：石造 下部：コンクリート造
1898	馬島灯台	島根県	レンガ造・石造
1900	中渡島潮流信号所	愛媛県	石造
1903	中ノ瀬灯標	広島県	コンクリート造
1908	石狩灯台	北海道	鋼構造
1908	伏瀬灯標	長崎県	コンクリート造
1909	豆蔵崎ミヨウ瀬照射灯(標柱)	長崎県	コンクリート造

◆評価ランク“D”の灯台 (計18基)

設置年	標識名	所在地	構造区分	設置年	標識名	所在地	構造区分
1894	鮎埼灯台	広島県	石造	1902	根ナシ礁灯標	山口県	上部：石造 下部：中詰コンクリート
1894	長太夫礁灯標	広島県	石造	1903	面高白瀬灯台	長崎県	コンクリート造
1894	高根島灯台	広島県	石造	1903	クダコ島灯台	愛媛県	石造
1895	波節岩灯標	香川県	石造	1904	五通礁灯標	熊本県	コンクリート造
1895	大藻路岩灯標	福岡県	石造	1904	西五番之碓灯標	広島県	石造
1897	戸島灯台	熊本県	石造	1904	屋形石灯標	広島県	石造
1898	戸馳島灯台	熊本県	石造	1909	伊豆岬灯台	東京都	上部：コンクリート造 下部：石造
1900	台場鼻灯台	山口県	レンガ造	1911	叶埼灯台	高知県	レンガ造
1900	守江港灯標	大分県	レンガ造	1912	蓋井島灯台	山口県	コンクリート造

◆評価ランク“A”の灯台 (計23基)

設置年	標識名	所在地	構造区分	設計者	備考
1870	神子元島灯台	静岡県	石造	プラント	改税約書
1871	江埼灯台	兵庫県	石造	プラント	大阪約定
1872	部埼灯台	福岡県	石造	プラント	大阪約定
1872	友ヶ島灯台	和歌山県	石造	プラント	大阪約定
1872	鍋島灯台	香川県	石造	プラント	
1873	釣島灯台	愛媛県	石造	プラント	
1873	菅島灯台	三重県	レンガ造	プラント	
1874	御前埼灯台	静岡県	レンガ造	プラント	
1874	犬吠埼灯台	千葉県	レンガ造	プラント	
1876	角島灯台	山口県	石造	プラント	
1876	尻屋埼灯台	青森県	レンガ造	プラント	
1876	金華山灯台	宮城県	石造	プラント	
1878	潮岬灯台	和歌山県	石造		改税約書
1883	祿剛埼灯台	石川県	石造		
1884	鞍埼灯台	宮崎県	コンクリート造		
1895	男木島灯台	香川県	石造		
1895	姫埼灯台	新潟県	鋼構造		
1898	美保関灯台	島根県	石造		
1898	経ヶ岬灯台	京都府	石造		
1899	室戸岬灯台	高知県	鋼構造		
1903	出雲日御碕灯台	島根県	石造(内部：一部レンガ造)		
1904	水ノ子島灯台	大分県	石造(内部：一部レンガ造)		
1912	清水灯台	静岡県	鉄筋コンクリート造		

以て保全を行った神子元島灯台、出雲日御碕灯台の保全工法を紹介しました。  
IALAでは世界の文化財的評価の高い歴史的灯台を「世界灯台100選」として提唱し、日本から神子元島灯台、犬吠埼灯台、姫埼灯台、美保関灯台、出雲日御碕灯台の5基が各国の灯台と共に選出されています。



## 歴史的事象と洋式灯台建設の概要

改税約書一八六六（慶応二）年五月に調印し設置した灯台

剣埼灯台・観音埼灯台（神奈川県）、野島埼灯台（千葉県）、神子元島灯台（静岡県）、樫野埼灯台・潮岬灯台（和歌山県）、佐多岬灯台（鹿児島県）、伊王島灯台（長崎県）

…第1等灯台  
本牧灯船（神奈川県）、函館灯船（北海道）  
…第3等灯台

大阪約定（大阪条約）一八六七（慶応三）年四月幕府とイギリス公使と兵庫開港に備えて約定した灯台

由良（今の友ヶ島灯台）第3等灯台、明石（今の江崎灯台）第1等灯台、兵庫（今の和田岬灯台）第4等灯台、下ノ関内外（今の部埼及びび六連島灯台）第3等及び第4等灯台

洋式灯台の建設開始（明治新政府）

一八六八（明治元）年六月に、東京近傍四ヶ所の灯台建設に着手し、横須賀製鉄お備フランズ人首長ヴェルニーが兼任で従事した。ヴェルニーは、野島埼灯台に副首長にチボジ、観音埼、城ヶ島、品川第2砲台に建築課長フロランを派遣し、工事は同年十一月に開始された。

イギリス人と洋式灯台

一八六八（明治元）年七月、五等外交官灯明台掛・上野敬介を首班とし、着任早々のプラントン、ブランドルらの参加した調査団は、イギリス軍艦マニラ号及びイギリス汽船アルグスを借入れて測量調査を行った。プラントンはこの調査の結果、大阪条約で決定した5灯台を含め、つぎの七ヶ所に灯台を建設すべきであると建議した。

苦ヶ島（友ヶ島）和歌山県、天保山（大阪府）、和田岬・江崎（兵庫県）、鍋島（香川県）、釣島（愛媛県）、部埼（福岡県）

プラントンの任期——一八六八（明治元）年二月二日〜一八七六（明治九）年三月一日、日本政府の技術顧問。

プラントンの後任——ジェームス・マクリッチ、一八七二（明治五）年三月五日〜一八七九（明治二）年二月三日。

雇い入れたイギリスの技術者は、一八八〇（明治一三）年中にすべて解雇した。現場灯台においても、一八七六（明治九）年一〇月すべて日本人となった。守灯方教師、ジェルジュ・チャルソンも、一八八一（明治一四）年五月解雇した。

日本人による灯台建設

藤倉見達（むくらみたち）一八八一（明治一四）年一月権少技長、一八八二（明治一五）年一〇月少技長、

一八八五（明治一八）年四月権大技長、同年五月局長。

藤倉は、プラントンの通訳として雇われて以来、常にプラントンに附随して灯台建設を学び、一八七二（明治五）年三月灯台寮八等出仕のとき、灯台技術研究のためイギリスに留学を命ぜられ、エジンバラ大学で建築学を修め、ベルロツク灯台の建設者であるR. スチブソンに教えを受けた。

石橋綱彦（いしばしつなひこ）一八七九（明治一二）年十一月、工部大学校土木科卒（第一回卒業）。

一八八〇（明治一三）年、灯台及び港湾工事業のため工部省よりイギリス留学を命じられる。トリニチーハウスの技師長J・N・ダグラスにつき灯台建築の指導を受け、当時改築中であった有名なエジストン灯台建築の実際を学び、その他電気灯台、霧信号機器等を研究し、イギリス、フランス、アメリカの各灯台機器製作工場を見学して帰国。帰国後、一八八三（明治一六）年二月、工部省准奏任用御掛として本局勤務、藤倉を補佐、後に藤倉の後を受けて航路標識管理所長となる。



本号で日本の歴史的灯台の価値評価、世界的な歴史的灯台の保存の動き、また、洋式灯台が持つ歴史的事象の一端を紹介しました。次回（最終稿）は、現在、海上保安庁が行っている保全事業を紹介します。



わが国は他のどの国にも例をみなかった超高齢化社会を近い将来に迎えることが不可避となっており、様々なメディアや討論の場において、社会保障問題や医療、老人介護施設の問題がクローズアップされる。確かにこれらの問題は重要であり、速やかに対策が講じられるべきものであるが、本書は高齢化社会の問題の本質を、医療や介護といった「サービス」にではなく、より根本的な「良質な居住環境ストックの形成」に求めている。

本書はこの点において特色があるが、高齢化社会の問題にとどまらず、さらに著者は、「住居は人権であり、福祉の基礎である」という考えの下、わが国の決して良いとはいえない居住水準（特に欧米に比べて狭いこと）が健康や人格形成、日常生活一般に与える影響や現在の住宅政策が社会的弱者に対して十分に配慮されたものでないこと等を論じ、欧米の例をとりあげつつ、良質な住宅資本の形成に向けた住宅政策及び「居住の権利」を主張することの重要性を提言している。

居住権を生存権の一つとして位置付けた場合に、総合的な社会的効用・経済性の観点から21世紀における住宅政策として何が求められるのか、われわれ国民が有すべき意識とは何かを考える機会を与えてくれる1冊である。（Y. I）



早川 和男 著

## 「居住福祉」

岩波新書 定価（本体）660円

現在日本経済が直面している問題について、景気対策が必要であるという論調が多い中、筆者は、現在の日本経済の状況に必要なのは本格的な構造改革であり、長期的な構造問題を解決しない限り、短期的な景気対策は有効に機能しないと述べている。本書の中で、従来の日本型経済構造を継続できなくなった構造変化として、「アジア諸国の工業化」「新しい情報通信技術の進展」「人口の高齢化」を挙げ、これらの構造変化に対応するリーディング・インダストリーを構築していくことの必要性を説いている。さらに、構造改革は、市場における試行錯誤を通じてしか実現できないと述べている。

日本の経済社会が、情報化、高齢化等の面から構造的な転換点を迎えていることが指摘される中、将来展望が不透明なこともあって、日本経済の先行きに関する悲観的な見通しが大勢を占めがちである。本書は、現在の日本経済の課題を踏まえた上で、21世紀に向けた経済再生戦略について、構造改革の必要性、方向付け等を平易、具体的に示しており、今後の方向性を模索する上で参考となる一冊である。（I. H）



野口 悠紀雄 著

## 「日本経済再生の戦略」

21世紀への海図

中公新書 定価（本体）660円



土

と

木

第八回

葛西紀巳子

## 土地の色、風土の記憶

色彩環境計画室 アメニティ&amp;カラープランナー

## 赤い砂

二〇年ほど前になるだろうか。エアーズロックを見ようと、オーストラリアへ出かけた。

エアーズロックとは、ご存知の通り、長さ三キロメートル、高さ三四八メートルもの、巨大な一枚岩のことである。日の出から昼間の強い陽射しを経て、日没に至るまでの間に、その岩肌が刻々と表情を変え、神秘的な色彩を映し出すのが魅力的な岩山だ。その色を「この目で見たい」という衝動に駆られた。

現在では誰もが訪れることのできるその場所も、当時はまだ、思うままには事が進まない。オーストラリアと真ん中の砂漠に辿りつくのは、やっとの思いだった。そのへとへとになった足元に続く大地の色に、私は目を見張った。辺り

一面、真つ赤な砂だったからである。赤土どころではない。真つ赤っか、なのである。初めて見る光景だ。衝撃的だった。以来、私は土の色への関心を強烈に抱くようになってしまった。

## 黄色い大地

中国の古代思想に「天地玄黄」という言葉がある。つまり、天は黒、地は黄というのである。なるほど、中国の大地は黄色いのか。胸躍らせて中国を訪ねてみた。しかし、期待していた真つ黄色の大地はどこにもない。それは、見慣れた土の色、わずかに赤みを帯びた茶色であった。中国の古典『淮南子』には、天地創造を次のように記している。「天地未だあらわざるときは、憑々翼翼、洞々瀾々たり。…静陽なるものは薄靡して天となり、重濁なるものは凝滞し

て地となり、…天、先づ成りて地、後に定まる。」つまり、最初の宇宙は天地とも混沌として未分化だったが、陰陽の二気が発生して「陽」の気が天に上り、「陰」の気が地に下がって天地が分かれた、というものである。それは、陰陽五行説の根本を唱え、そこに「天地玄黄」という言葉が出てくるのである。

だからなのか。中国では河は「黄河」、大地は「黄土」、時折、大陸から吹き込んでくる砂を「黄砂」と言ったりもする。中国における黄色は、自然の最も尊い色の象徴だったのである。

## 赤か黒か

一昨年、沖縄でちょっとした論争が新聞を賑わせた。「赤か黒か」という見出しである。スタンダールの小説ではない。赤瓦か黒瓦か、という問題だ。つまり、本土から入ってきた達磨寺（禅寺）が、屋根瓦をそのCIカラーともいえる黒にしたため、従来の沖縄の赤瓦に対して景観を損ねるのではないか、というのである。

確かに、沖縄の風土からすると真つ黒は違和感を生じる。激しい太陽光線は色鮮やかな植物を育み、魚や動物の体色をトロピカルカラーに進化させてきた。この地域では、ヴィヴィッドな色こそ、自然の色として景観に調和する。

人工物はどうだろう。歩道などの構造物には地場の琉球石灰岩を使い、自然の色はその岩の白に対比され、より鮮明に色が映える。それは、

海辺の砂にしても同様だ。

かつて、瓦やレンガは、その地域の土を焼いてつくったものである。沖縄の赤瓦も、そうした地域の土の発色であろう。この論争は、景観をつくり出す色の基本が問われることになった。

### 歩道の色

園児の頃だから、四〇年も遡ることはない。手を引かれて、父と横浜山下公園の前の道を歩いた。今でも思い出すのは、歩道の床に、所どころ埋め込まれていた横浜のシンボルを描いた、藍色の絵付けの小さなタイルである。私は隠れキリシタンのごとく、その絵を踏めずに、飛び跳ねながら歩道を歩いたものである。次にあらわれるモチーフの期待も孕んで、下を向き歩く私は、ひたむきな、いや、した向きな子供だったのだ。

そんな繊細なデザインが懐かしまれるのも、まち中の歩道が、赤、青、黄、緑……と、色とりどりになったからである。幾何学模様あり、具象画ありと、区域で変わり続く図柄はまるでパレットだ。眩暈を起すことを恐れて、今では前を向き歩くようにしている。

### 環境に適した木の色、土の色

このような土地の色、風土の記憶は、都会にいと鈍ってしまう。土に触れることが少ないからである。地域によって異なる土の、色の違いを感じ取ることさえ忘れてしまいがちだ。車優先の道路は、アスファルト舗装で整然と固め

られ、東京も大阪も札幌も那覇も、同じ色となった。一方、歩道は「騒色」ともいえる装飾を施し、食傷気味である。どちらも、その下にもととの土の色が眠っているはずだ。時折、その色を確認したい一心で、ボーリング工事で掻き出される土を見に、足を止めることもある。観光地化したエアーズロックの道路舗装がアスファルトの灰色ではなく、あの時の土の色の真っ赤を基準にしていることを願いつつ……

樹木が、育った環境の中で生き生きと輝くように、土の色もその地域に適してこそ、本当の風土色をつくり出す。中国が大地の色を最も尊い色で象徴したように、土の色は景観をつくり出す「重要な基準」となるからである。それが、その土地の個性、土地柄（それを私は、「土地カラー」といつている）をつくり出すのである。

経済大国となつてしまった日本は、多様化した建材や自由な流通機構のもとで、地場の土や砂や木がもつ色や特性を無視してしまったようである。それらが、その土地の個性をつくり出す大切な要素となるのである。

まちの景観をつくる土木構造物や建築物などの人工色は、せめて、その土地の素材色を基準として考えていくべきだ。かつての日本が、その地域の木材や岩で骨組みをつくり、その土地の土で瓦を焼き、壁に塗り込んでいったように、たとえ、人工的な材料を用いる場合でも、自然との調和にもっと配慮すべきである。土と木、

「土木」とはそんな意味を含む、素晴らしい言葉だからである。

いま、二十一世紀に向けての日本の課題は、環境への負荷を軽減する技術開発にある。それは、色彩環境も同じである。人間だけでなく、生命全体の負荷軽減のため、環境の色も考えていかなければならない。人間以外にも、光や色を感知する生物はたくさんいるのだから。

### 自然が映える建物の色と素材

最後に、イタリアのサルデーニャ島の話しよう。地中海で囲まれたそのまちの色は、冴えたピンクとイエローの美しい家並みだった。あまりの景観美に、質問を投げたくなった私は、市役所を訪ねた。「外壁の塗装色にルールはあるのですか。」すると、ピンク系、イエロー系、ブルー系の計九色を切り貼りした手作りの用紙を差し出して、職員は言った。「塗り替えは、この色が基準となります。」見たところ、ブルー系が少ないので尋ねると、「ここは島だよ。周りにこんなにも美しい空と海の青があるのに、なぜ、同じ色を人工色に使う必要があるのかい？ 自然の色が映えるように建物の色を決めるんだよ。」

その美しいまちの色は、見事に自然の色を引き立てていた。塗り込んでいく外壁材は、海から取れるたぐさんの貝を粉にして、塗料に混ぜるのだという。土壁ならぬ「貝壁」だ。先人の知恵は、ここではまだ、しっかり息づいていた。





# 進取の気運が育てた 山里のロマン

あすけ  
愛知県・足助町



## 足助町と香風溪こうふうけい

足助町は愛知県の北東に位置し、全体の八七％が山野で占められている。

江戸時代から明治頃までは、海岸部でつくられた塩を信州に運んで交易したため「塩の道」とも呼ばれ大いに賑わった。往時を偲ばせる古い町並みは、町のあちこちに見ることができ。

また、飯盛山のふもとに広がる香風溪は、東海随一とうたわれる紅葉の名所である。約三七〇年前、香積寺の住職が植えはじめ、その後、大正末に住民が参加して桜や楓を植え足し、町も飯盛山一帯を森林公園として整備しはじめ、昭和五年に「香風溪」と命名された。自然にできた景勝地のようなだが、長い間地域の先人により育てられてきた努力の結晶であり、現在も地域のポランテアに支えられ美しい姿を披露してくれている。

## 歩く楽しさを

香風溪の観光施設は飯盛山と巴川を中心に配置されている。そこを観光客はゆつくり散策し、食事や休憩をしながら回ることができる。森林公園として整備されていることもあり、車の乗り入れはできない。足を使って歩くことが、自然を一層身近にさせる。

十一月は夜九時まで紅葉のライトアップが行われ、日が落ちてからも散策を楽しむことができる。

この一帯は郷土料理店や観光施設も茅葺きの



▲家畜も暮らす「三州足助屋敷」

民家を基調としており、四季の風景だけでなく、建物自体も季節によって顔を変え楽しめる。苔むし、しっとり湿った茅葺き屋根の緑に紅葉の赤がよく映える。

途中、二箇所に分けられた橋は、朱で塗られ、一方は吊り橋となっている。その間にある「三州足助屋敷」は、明治の豪農の伝統建築を再現新築しているが、築後二〇年という歳月が風格を与えている。ここでは、足助の山里の文化が生きたものとして体験できる。手仕事や食文化までカバーされており、観光だけでなく地元的生活文化を伝承していくのにも一役買っている。

## 古いものが新しい

町中は江戸時代の白壁づくりの町家や土蔵が連なり、黒板塀のマリン小路は洒落た風情がある。大正時代の警察署を利用した商工会には、町並み案内所が設けられ、各施設のパンフレット

トや散策用地図などを手に入れることができ  
る。また、大正元年に建てられた旧稲橋銀行社  
屋を利用した「足助中馬館」では、商業・金  
融・交通・町並み等の資料を展示している。

こういった古い建物の活用や町並みの調和を  
考えた建て替えなどには、町民憲章（昭和四八  
年制定）にある「保全を開発と信じるまち」と  
いう言葉が活かされている。

また、マンリン書店の「蔵の中ギャラリー」  
（町家の蔵を現代感覚でアレンジしたギャラリ  
ーに喫茶スペースを併設）のように、新しい文  
化を発信する動きもある。こうした個人の活動  
がつつがって、足助の町全体が活気づいていく  
のだろう。さらに、各施設や古い建物にはそ  
れぞれ案内板をつけるなど工夫されているが、  
今後はそれらをつなぐような整備が期待され  
る。

### 魅力に変える力

足助町の人口は平成一〇年四月現在で一万四  
百人、高齢化率は二七％に届いているとも言わ  
れている。

町制一〇〇周年目にあたる平成二二年一〇月に  
開館した福祉センター「百年草」は、老人福祉  
センター・ホテル・レストラン等の複合施設で  
ある。ここで注目されるのは、サービスの受け  
手とばかり考えられがちな高齢者が、ここでは  
重要な働き手として活躍している点である。  
「足助ハムZiZi工房」・「bakery パーバラはう  
す」では、高齢者が若い職員たちと共に元気に

働いている。さらに、レジに用意された観光  
マップを片手に足助の見所をアドバイスする  
といった高齢者と観光客との楽しいコミュニケ  
ーションも店の魅力となっている。

「三州足助屋敷」にしても同様だが、高齢者  
の生きがいづくりと同時に雇用の創出も行い、  
世代間交流を促しながら地域文化の発信を行っ  
ている。これらの施設が連続性を持つことによ  
り、自分たちの働きに対する反応もダイレクト  
に受け取れる。

### 足助が問いかけるもの

地域おこしのトップランナーとして注目を集

め続けている足助町であるが、息の長い活動の  
背景にはそれを支える地元住民や地域外の支援  
者の層の厚さがある。自分たちの町の進んでき  
た道を折に触れ振り返り、何が本当に必要なの  
か問い直す作業を忘れない。これは、自分の足  
で歩くことを大切にする足助の精神文化があつ  
てこそ成し得たことかもしれない。

先日、「まちづくり先進地レビュー講座」別  
表参照）で足助町が取り上げられ、これまでの  
活動が住民にとってどのようなものであったの  
か、次の世代に何を伝えていくべきかが活発に  
議論されたことも報告しておきたい。

（取材・鈴木 久美子）

まちづくり先進地レビュー講座 1999

## 愛知県足助町 まちづくりの軌跡と展望

（11月27日・早稲田大学にて）

### プログラム

#### あいさつ

後藤春彦（早稲田大学）

#### スライドレクチュア

足助の歴史・まちづくりについて

#### 鼎談

矢澤長介（足助町長）×小沢庄一（足助町観光協会長）×後藤春彦

#### まちのひとびとの声

インタビュー調査結果の概要報告

#### 足助のまちづくりを批評する

ゲストクリティック

荒木正道（足助町慶安寺住職）・市村次夫（長野県小布施町・  
小布施堂）・猪爪範子（地域プランナー）・上杉秀隆（建築  
家）・春日俊雄（新潟県高柳町）・近藤庸平（長野県浪合村）・  
長橋 朗（足助町町議会議員）・深見富紗子（足助町・マンリン  
書店「蔵の中ギャラリー」）・松場登美（石見銀山生活文化研究  
所）・宮崎 清（千葉大学）

#### まとめ

山崎寿一（神戸大学）、伴丈正志（長崎総合科学大学）/  
小沢庄一・矢澤長介

主催：早稲田都市計画フォーラム

早稲田大学理工学総合研究センター

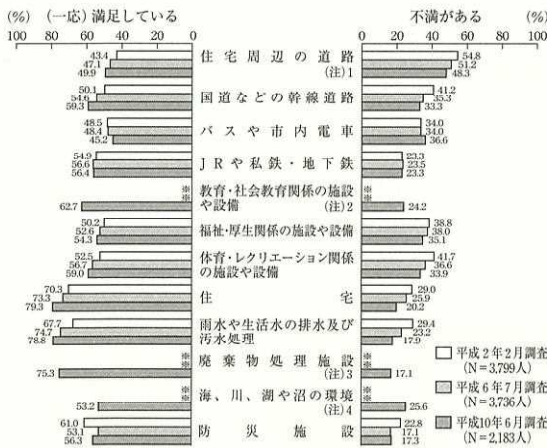
Highlands and Islands Project 研究



～人口の動きから見た住宅・社会資本～

転換期を迎えるわが国の人口

図表 居住地周辺における社会資本の整備状況についての評価



- 注) 1. 平成2年2月調査までは、選択肢は「町内の道路」となっていた。
- 2. 平成6年7月調査までは、選択肢は「教育関係の施設や設備」と「社会教育関係の施設や設備」に分かれていた。
- 3. 平成2年2月調査までは、選択肢は「ゴミ処理」、また、平成6年7月の調査では、「ゴミの回収作業」となっていた。
- 4. 平成6年7月調査までは、選択肢は「川、湖や沼の環境」となっていた。

資料) 総理府「社会資本整備に関する世論調査」

わが国の住宅・社会資本は先進諸国に遅れて整備が始まり、変化する経済・社会の動きを追いかけながら急速に蓄積されてきた。その結果、現在でも地域的な格差やお立ち遅れている部門は残されているものの、総体としてのその整備水準は着実に向上しており、近年の世論調査の結果でも住宅・社会資本に対する国民の満足度も着実に向上してきている(図表)。

しかしながら、わが国の住宅・社会資本は残された課題を抱えている上、今後情報化・グローバル化・社会・地球環境問題など経済・社会

の大きな変化要因が存在しており、これらはどれ一つをとってもわが国の経済・社会のあり方を大きく変えてしまう可能性を持っている。こうした変化の時代の中で新たに必要となる住宅・社会資本整備を行い、かつ過去の歴史の中で残された課題を解決していくためには、将来へのなべく確かな見通しを持つことが求められる。しかし、急速な技術革新や国際的な政治・経済の動きと複雑にわたって見通すことは容易なことではない。したがって、ある程度確かな長期展望を与え、かつ様々な

変化要因の基礎的な要因ともなっている人口の動きを中心に据えることとし、可能な範囲でその他の変化要因を考慮することとする。

そこで、まず注目されるのが大きな転換期を迎えているわが国の人口の動きである。明治維新(一八六八)から今日までの約一三〇年の間に約四倍になったわが国の総人口は、今まさに頂点にさしかかりつつあり、来世紀に入って早々の平成二〇年(二〇〇八)頃には長期的な減少の過程に入ると予測されている。われわれは、一世紀以上にわたって続いた増大の時代から、長期的な人口減少という未経験の時代へと入る入口に立たされている。しかも、この人口減少はわが国が諸国に先駆けて直面する問題であり、過去にわが国が行ってきたように諸国の先例に学んで対応策をとるということができない問題である(国連の推計ではイギリスの人口の頂点は二〇四〇年頃、フランスは二〇三〇年頃とされている)。

また、人口の減少は、少子・高齢化の進行、広大なる過疎化・静かなる集中の進行など、経済や財政に止まらず、地域社会・家族・個人のあり方にも大きな影響を及ぼす問題でもある。

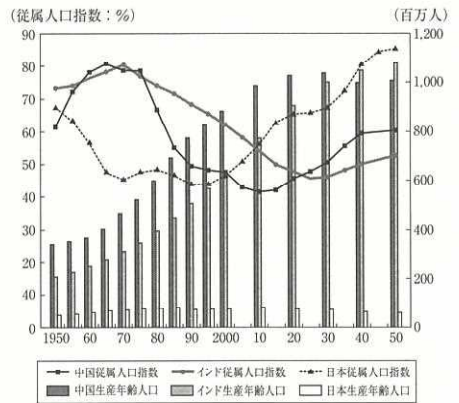
～人口の動きから見た住宅・社会資本～

## 世界とわが国の人口の将来推計

世界の人口の動きについては国連が推計をしており、これを見るとわが国の人口の動きとはかなり様相が異なっていることが分かる。以下ではその概要を紹介する。

国立社会保障・人口問題研究所の中位推計によれば、わが国の人口は平成一九年（二〇〇七）をピークとして翌年から減少局面に入り、平成六二年（二〇五〇）には現在の約八割の約一億人にまで減少するとされている。これに対し、世界人口は平成七年（一九九五）現在で五七億人余であるが、平成六二年（二〇五〇）には現在水準の七割増の一〇〇億人に近づくなど圧倒的な人口爆発が予想される。わが国の人口の減少開始直後の二〇一〇年から二〇五〇年までの人口増減を比較すると、わが国人口が年平均六八万人、〇・六〇％の減少であるのに対し、世界人口は

図表 日本・中国・インドの従属人口指数と生産年齢人口



資料) 国際連合「世界人口予測 (1950→2050年)」

平均七〇〇〇万人、〇・八四％の増大であり、世界的に見ればわが国の減少の規模は微々たるものに過ぎない。このような人口の爆発的な増大は専ら発展途上地域全体での人口増加によるものである。先進地域の中の人口の動きを見ると、アメリカを除いていずれの国も人口減少局面へ移行すると予測されている。これは高齢化による死亡率の上昇に加えて非婚化・晩婚化等による出生率の低下によるものと考えられる。特にわが国の出生率は先進地域平均と比べ一九五〇年代前半までは高くその後低迷しているため、年齢別人口のゆがみが大きく、高齢化と人口減少が他の国に比べ急速に起こることとなる。

次に生産年齢人口の将来推計をみてみると、わが国では平成六二年（二〇五〇）までに三〇〇〇万人の減少となるのに対して、わが国周辺のア

ジア地域では中国で約二億人、インドで約五億人など億単位での膨大な増大が予想されている。これらの国々では、この生産年齢人口の増大と出生率の低下が同時に進行しているため、わが国が経験したのと同様の「人口ボーナス」の時期を迎えており、これが来世紀に入っても当分は持続すると予測されている(図表)。これら近隣諸国が人口ボーナスをうまく利用して順調に経済発展を持続できれば、それはわが国にとっても利益となる。例えば中国は豊富な労働力により一九八〇年以降実質GDPは年率一〇％前後の伸びを示しているが、それに伴いわが国との貿易額も増加し、わが国の輸入額に占める中国の割合も三二％(一九八〇年)から一二・四％(一九九七年)に高まり重要性を増している。わが国で相対的に豊富な資本や技術を近隣諸国の豊富な労働力と結び付けて生産を行えば、双方の不足を補い合って効率的な生産が可能となる。この場合、労働集約的な財の貿易等を通じてわが国の人口減少による労働力不足の影響は緩和されると考えられる。しかし、わが国の近隣諸国が順調な経済発展に成功しなかった場合、わが国に流入しようとする周辺諸国からの人口流入圧力が高まることも考えられる。



～人口の動きから見た住宅・社会資本～

## 世帯構成の変化による非効率化

図表 世帯構成の変化による消費の非効率化

(a) 平成6年の世帯類型別消費パターン (円/月)					(b) 消費の変化					
	単独世帯	夫婦のみ世帯	夫婦と子ども世帯	片親と子ども世帯	その他の世帯		1995年を100とした2020年の消費			
食料	43,077	73,451	92,185	63,266	107,190	食料	105.3			
住居	24,919	22,428	19,706	20,552	11,510	住居	114.8			
光熱・水道	7,788	15,215	19,212	15,217	23,932	光熱・水道	104.9			
家具・家事用品	5,845	12,277	13,098	10,188	15,192	家具・家事用品	106.5			
被服及び履物	12,997	18,922	22,182	15,995	24,482	被服及び履物	106.9			
保健医療	4,899	10,572	9,553	6,507	11,438	保健医療	107.6			
交通通信	19,578	31,852	38,207	25,224	41,005	交通通信	106.2			
教育	48	45	25,972	10,567	22,211	教育	90.3			
教養娯楽	23,882	32,268	32,974	21,330	34,129	教養娯楽	108.6			
その他の消費支出	28,990	76,165	82,781	55,814	103,881	その他の消費支出	105.0			
合計	172,023	293,195	355,871	244,660	394,970	合計	105.9			

注) 夫婦と子ども世帯については、夫婦と子ども1人の世帯、夫婦と子ども2人の世帯、夫婦と子ども3人以上の世帯の消費額を世帯数で加重平均したもの。その他の世帯については夫婦とその親の世帯と夫婦と子どもと親の世帯の消費額を世帯数で加重平均したもの。なお単独世帯は、単身世帯の数値を使用している。

資料) 総務庁「平成6年全国消費実態調査報告」

今後、わが国の人口の動きは量的に減少するだけでなく、家族のあり方や個人の生活にまで影響を与える幅の広さを持っている。人口に関連する指標の中から世帯数についてみてみると、人口が減少局面に入っても平成二六年(二〇一四)まで増加し、その後緩やかに減少し始めると予測されている。その間、平均世帯人員の規模は、縮小し続けると予測されている。また、家族類型別の分類で見ると、平成七年(一九九五)現在で最も一般的な「夫

婦と子から成る世帯」に代わって、平成三二年(二〇二〇)では「単身世帯」が最も一般的な家族類型となり、世帯の小規模化が予測されている。このような「世帯の小規模化」により、消費の非効率化がもたらされると予想される。特に電気・ガスなどのエネルギーや食料など、家族の共同生活により効率化されている基礎的な部分での消費が非効率化すると考えられる。ここで、平成六年全国消費実態調査により、「単身世帯」

「夫婦のみ世帯」などの世帯類型別に消費パターンを調べ、これが将来的に変化しないものと仮定して、今後の世帯構成の変化のみによって引き起こされる消費の変化をみてみた(図表)。これによると、平成三二年(二〇二〇)では平成七年(一九九五)と比べて消費は五・九%増加するという結果になった。この間、人口は約一%減少すると予測されており、世帯構成の変化のみからも消費の非効率化がもたらされることが分かる。

こうした「世帯の小規模化」によってもたらされる消費の非効率化から、人口の減少が必ずしも自動的に環境負荷の軽減に結びつく訳ではなく、工夫や努力が必要になることが読み取れる。この「世帯の小規模化」の要因については、晩婚化・未婚化・離婚の増加・親子の同居率低下など結婚・世帯形成行動の変化によるものと考えられるが、さらにわが国では、少子・高齢化などの急激な人口構造の変化も予測されている。よって、人口減少による環境負荷の低減や循環型社会を構築するためには、こういった人口に関連する動きを踏まえた上で、環境負荷の小さいライフスタイルを支援するような住宅・社会資本整備が求められる。

～人口の動きから見た住宅・社会資本～

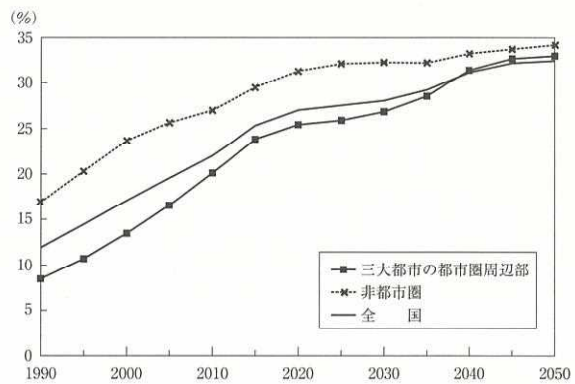
## 広大なる過疎化と 静かなる集中

明治維新（一八六八）から今日までの約一三〇年の間に約四倍になったわが国の総人口は、今まさに頂点にさしかかりつつあり、平成二〇年（二〇〇八）頃には長期的な減少の過程に入ると予測されている。

しかし、この人口減少の進行は地域的に見て決して均等ではなく、高度成長期の生産年齢層の移動による地域ごとの年齢構成のゆがみに起因する、地域間の人口偏在を伴う現象であることに注意する必要がある。

このため、全国に都市圏（生活や経済上一体をなしているいくつかの

図表 三大都市の都市圏周辺部及び非都市圏の高齢化率推移



資料) 建設省

市町村をひとまとまりとして考えたもの）を設定し、将来の人口を推計したところ、三大都市の都市圏のグループ及び三大都市・政令都市以外の都市の都市圏のグループは全国の総人口の動きとほぼ同様であり、また、政令指定都市の都市圏のグループはこれらの都市圏のグループに比べて人口減少局面に入る時期が遅く、平成六二年（二〇五〇）時点においても現在の九割を超える人口を保つであろうと予測される一方、非都市圏のグループにおいては既に人口が減少しており、同年には現在の

六割程度にまで大きく減少すると予測される。その結果、全国の面積の約六割を占める非都市圏全体の平均人口密度は現在の過疎地域並みに低下し、国土の「広大なる過疎化」がもたらされると予測される。

また、三大都市の都市圏の周辺部においては人口が相対的に集中していくことが予測されるが、その際、高齢者の集中が著しいところに大きな特徴がある。全国の高齢者数に占める三大都市の都市圏周辺の高齢者の割合を見ると、現在では五人に一人であるが、平成六二年（二〇五〇）には三人に一人の高齢者が三大都市の都市圏の周辺部に住むことになると予測され、その結果、三大都市の都市圏周辺部における高齢化率は非都市圏の高齢化率に迫ることとなる（図表）。このように、三大都市の都市圏の周辺部では、今後は全国的な人口減少の中で結果的に高齢者が集中する「静かなる集中」を経験すると予測される。

「広大なる過疎化」と「静かなる集中」に対しては、交流の維持拡大、都市の活力維持と魅力の向上が効果を持つものと考えられ、住宅・社会資本がこれらの役割を果たしていくことが求められる。



# 「工学研究社」

## 技術系通信教育の老舗 登録講師の派遣、研修プランの提案も

「新しい『テクノロジーと文化』創造の時代にチャレンジする社会人に、新鮮で感動ある学習機会を提供する」という理念をかかげ、工学研究社は、技術者の通信教育、それに企業研修企画サポート（目的に合った講師の派遣、学習ニーズの調査や研修企画、研修運営、フォローアップ）の仕事をしている。

創立は一九六九年（昭和四四年）、当初、技術雑誌を発行していた。翌七〇年には、東京大学生産技術研究所の先生の支援により、技術系の通信教育を開始、三〇年の実績がある。

社長の齋島時雄氏は、当時を振り返っている。「工業生産力を支えているのは、技術者の技術的創造力であると思います。その人たちのニーズに立脚した仕事をしていこうというのが、会社をつくったそもそものはじめなんです。最初に開講したのは「機械技術者のための電気と電子の知識講座」で、日本は、加工技術を中心に、新しくエレクトロニクス時代の幕開けを迎えていました。機電一体化、つまり機械屋がエレクトロニクスの技術を持っていなければ、やっていけない時代になっていました」と。

八九年には、企業内で実施される研修会のカリキュラムを立案したり、講師を派遣する事業にも本格的にのりだした。

現在、工学研究社がやっている通信教育のシリーズ分野には、表1の一覧表にみるように「階層別教育」、「技術管理」、「電気通信関連の

資格取得」、「OA・パソコン」、「ソフトウェア技術教育」、「情報・通信技術」、「IC・電子回路」、「機械技術者のための電気・電子制御技術教育」、「機器設計・生産システム技術教育」、「監督者・オペレーターのための技術教育」、「プラスチック・プレス技術／材料教育」がある。

技術系の通信教育といっても、建設に直接かわる土木や建築ではなく、主に製造業の人たちを対象とした機械や電気・電子、情報通信などだ。しかし、大手の建設企業では、通信教育を社員の自己啓発のために推薦し、利用しているところもある（表2参照）。建設業界では、土木のシールド工事や建築工事で、機械や電気  
の知識が必要とされる部署もある。建設業界の人も知っておくべき、ISO9000・14000の入門講座、技術系創造力講座、その他の講座も含まれている。

工学研究社の通信教育受講者の多くは、理工系を卒業した人で、その大部分は機械や電気  
の専門技術者のほかに、周辺で支援するグループの人。たとえば企画や開発の担当者、発注する立場の人、デザイナー、生産現場の技能者、営業や販売の担当者、資材や購買の担当者なども受講しているという。周辺で支援するグループの人であっても、その製品をつくる技術を知っておかなければ、共通の話ができないし、よいモノはつくれない、自信を持って売ることがで

きないからだ。

通信教育の利用には、二つのケースがある。ひとつは、会社の紹介・推薦により個人で自己啓発のために受講する場合と、もうひとつは、会社が人事考課や昇格のための条件として受講させる場合だ。

工学研究社の講座は、平成一〇年十二月からスタートした国の「教育訓練給付制度」(労働大臣が指定する教育訓練を終了したら経費の八〇%が支給される)で指定されているものもあり、利用されている。

工学研究社では、徹底的にニーズ調査を行って講座を組み立てている。現場の技術者に「何が必要なのか」、「何を知りたいのか」を聞き、また、年間二万〜三万人の受講者に、たえず、「なぜこの講座を受けたのか」、「現場で困っている課題は何か」、「将来のために勉強したいテーマは何か」といったアンケートを行って、内容に活かしているという。

①学ぶ人の立場に立って、はじめに教育を考える。②学ぶ人・考える人とのコミュニケーションの場をつくり、大切にすること。③チャレンジ精神を持って、おもしろく仕事をする。④好奇心を失わず、自己革新を楽しむ。⑤いまに甘えず、つねに一流を目指す。それが、工学研究社の方針だと、龍島社長は強調する。

表2 建設会社における  
人気講座ランキング

順位	講座名	%
1	「かならずわかる ISO 9000入門講座」	34
2	「電気通信主任技術者受験講座」	20
3	「かならずわかる ISO 14000 入門講座」	9
4	「電気通信のための工事担任者受験講座」	8
5	「知的財産権入門講座」	5
6	「新・データ通信基礎講座」	4
	「Visual Basic 入門講座」	4
7	「技術系創造力養成講座」	3
	「はじめてのISDN入門講座」	3
	「データ通信基礎講座」	3
8	「統計的方法の活用講座」	1
	「データベース検索能力養成講座」	1
	「無線通信入門講座」	1
	「新・UNIX 実務基礎講座」	1
その他	OA・パソコン系の講座	3

表1 通信教育講座の一覧

シリーズ	講座名	シリーズ	講座名
階層別	技術系社員のための階層別教育講座 一般コース	情報・通信	データ通信基礎講座
	技術系社員のための階層別教育講座 中堅コース		無線通信入門講座
	技術系社員のための階層別教育講座 初級管理者コース		信号処理入門講座
技術管理	PL(製造物責任)予防対策入門講座	IC・電子回路	これで行なく移動体通信講座
	かならずわかるISO 9000入門講座		IC入門講座
	かならずわかるISO 14000 入門講座		IC技術基礎講座
	かならずわかる環境マネジメントと監査講座		IC応用設計技術講座
	かならずわかるCEマーキング入門講座		半導体の物理とデバイスの基礎講座
	知的財産権入門講座		半導体製造プロセス入門講座
	Excel でわかる統計的方法の活用講座		アナログ応用技術講座
	実験計画法入門講座		アナログ処理技術講座
	信頼性工学入門講座		ノイズ対策実務講座
	有限要素法入門講座		新・電子回路設計実務講座
	SEのためのプロジェクト管理コース		機械系技術者のための初歩の電気講座
	技術系創造力養成講座		実験でわかるやさしい電気入門講座
わかりやすいマニュアルの作り方講座	電気制御基礎講座		
見える・見せる新プロジェクト管理コース	新・エレクトロニクス制御基礎講座		
資格取得	機械の電気保全実務講座	電気・電子制御	メカトロニクス実務講座
	電気通信のための工事担任者受験講座		モータ制御と選び方講座
	電気通信主任技術者受験講座		やさしい機械工学入門講座
OA・パソコン	データベース検索能力養成講座	機器設計ほか	自動機設計実務講座
	これならわかる Windows95		生産システム入門講座
	ミドルのための Windows パソコン講座		設備・機械メンテナンス実務講座(電気)
	パソコンLAN効果的活用術		設備・機械メンテナンス実務講座(メカトロニクス)
	Excel かんたんVBA コース		設備・機械メンテナンス実務講座(油・空圧)
	Windows NT4.0 活用講座		設備・機械メンテナンス実務講座(材料と機械故障)
	ソフトウェア入門講座		設備・機械メンテナンス実務講座(機械要素・機構)
	C言語プログラミング入門講座		設備・機械メンテナンス実務講座(機械要素・機構)
	実践・C言語プログラミング講座		機械の電気・油・空圧知識講座
	新・UNIX実務基礎講座		新・食品工場の衛生入門講座
ソフトウェア	Visual Basic入門講座(Ver. 5.0対応)	ブラステックほか	プラスチック入門コース
	これで行なくマルチメディア講座		新・成形樹脂材料知識コース
	初歩の情報ネットワーク講座		成形部品設計基礎コース
	はじめてのISDN入門講座		プレス金型設計・製作基礎コース
	新・データ通信入門講座		金属材料基礎講座(全コース)

〈内容と資料の問い合わせ先〉

(株)工学研究社 研修企画推進グループ  
Tel.03-5362-5164 Fax.03-5362-5166  
〒166-0004  
東京都新宿区舟町6番地  
四谷1484ビル



# 21世紀の伊能忠敬を 目指したい

## 62歳 測量の専門学校に入学



**高松 修**さん（たかまつ・しゅう）

1937年、札幌市生まれ。北海道大学を卒業後、生命保険会社に長く勤務、その後、関連のビル管理会社の取締役をしたあと、98年6月に退職した。趣味は学生時代からのテニス。東京都八王子市在住。

62歳になる元会社役員・高松修さんが国土建設学院（東京都小平市喜平町2の1の1）の測量科にトップの成績で合格し、昨年10月から通学している。同校の入学者としては最高齢。測量の技術と資格を身につけ、将来は自分の事務所を開き、ボランティアとして開発途上国の国土づくりにも携わるのが夢だ。

今回は、第二の人生を生き生きと歩み始めた高松さんに、測量の世界を志された動機、学院での生活、今後の抱負などについて語ってもらった。

平成11年11月11日に

l.n.t.e.r.v.i.e.w

■保険から土木へ、ある意味ではソフトからハードへの大きな転身ですね。きっかけは何だったのですか。

保険会社時代に不動産部にいた関係で、宅建や土地家屋調査の世界を知り、その時に宅建の資格は取ったのですが、定年後には土地家屋調査の仕事をしてみたいと、漠然と考えていたん

です。そして、次に勤めたビル管理会社の役員定年がはつきりしたぐらいで、ちよつと遅れたかなと思いつながら、高田馬場にある早稲田法科専門学院をのぞいてみたら、「土地家屋調査士になるには、まず測量士補の資格を皆さん取りますよ。取らないと受からない状況です」と言われて、参考書をあれこれ探して測量の勉強を

始めたわけです。私は数学が不得意なのでなるべく薄いものを買ったのですが、用語もわからなくて、一回目は読むのにとても時間がかかりました。それが二回目、三回目と読み進むと、

わからないだろうと思っていた数学が少しずつわかりだして、今度は面白くなってくるんですね。それで、どうやら測量士補の試験は受かったのですが、デスクの上で勉強しただけで実技が全くできないし、非常に興味もわいてきて、建設省の建設大学校に入学案内をお願いしたんです。その時はちよつとオーバーに「二十一世紀の伊能忠敬を目指す」と書きました。笑われちゃったと思うんですけども、お願いしましたら、こちらの国土建設学院を紹介していただいたのです。

■トップの成績で合格されたと聞いています。

それは本当にまぐれで実力ではありません。そんなことを書かれたら、これからみっともない成績をとつたらまずいとか、きちんと卒業しなくてはいけないとか、すごくプレッシャーです。（笑）

■久しぶりの学生生活はどうですか。

最初はこういう教育機関があることも知らなくて、家が近いということで選んだのですが、来てみるとここはいいですね。卒業生も多いですし、教育体制もすばらしいと思います。私なんか初めての世界で戸惑うことばかりですけれども、非常によく理解できて一人で勉強しているのとは大違いです。クラスメイトも、四月に入ってきた人たちは若い人ばかりなんです、



十月生には測量を五・六年やってきた人がいっぱいいて、計算の確認などいろいろ助けてくれるんですよ。六二歳と三〇歳前後の年齢差ということで、ギャップを少し感じることもありませんが、職業経験の成せる技でしょうか、皆さん自己がしっかり確立している印象を受けます。ようやく一人一人の違いがこのごろわかってきて、皆さんとても明るいですよ。

■今回の選択について、「ご家族は何かおっしゃっていますか。」

息子二人はびびりして言葉もなかったような感じですけど、ワイフは、今まで子どもを育てるのにお金の面でいろいろ注いできたわけですから、「今度は自分に少し投資したら」と、そんなような理解をしてくれました。これはありがたいと思っています。

■最後に、これからの夢や抱負を聞かせてください



学院周辺の玉川上水で測量実習する高松さん

一口メモ：伊能忠敬(1745～1818)は、日本全国の約4万kmを20年近くかけて歩いて測量し、初めて実測による日本地図を作った人として有名で、戦前は小学校の教科書にも載せられ偉人とされた。戦後、しばらく忘れられた存在であったが、井上ひさし氏が小説『四千万歩の男』を書き、また忠敬はこの事業を55歳から成し遂げ、その熟年パワーが現在の高齢化社会に強烈なメッセージを与えたことなどから、今、再び注目されている。忠敬ブームの高まりとともに、各団体・各地方でいろいろなイベントが催されているが、その一つに忠敬の足跡をたどる「伊能ウォーク」がある。

伊能ウォーク「平成の伊能忠敬 ニッポンを歩こう」は、朝日新聞・(社)日本歩け歩け協会・伊能忠敬研究会の共催で、昨年1月25日に東京をスタートし、2年かけて全国を巡り歩き、21世紀を迎える2001年元旦に東京でフィナーレを飾る大イベント。昨年7月21日には347人が参加して、八王子市から山梨県上野原町までの約32kmを歩いた。このコースは、忠敬が第7測量(1811年)の旅でたどった道に一部重なる。この一行には、高松さんが通学している国土建設学院の学生と職員37人も授業として参加した。



い。

私のサラリーマン生活は、どちらかというところデスクでやる仕事が多かったから、しかも管理的な仕事が多かったですから、これからはフィールドに出て、専門的な仕事を自分で楽しみながらやっていければ一番いいと思っています。大きい規模の追求型ではなくて、スモールオフィスでじっくり専門的な仕事に取り組み、そんな生き方が夢なんです。その中で途上国の国土づくりですとか、ボランティアとしての広がりの部分で測量の仕事がいっぱいできれば、これは楽しいですね。

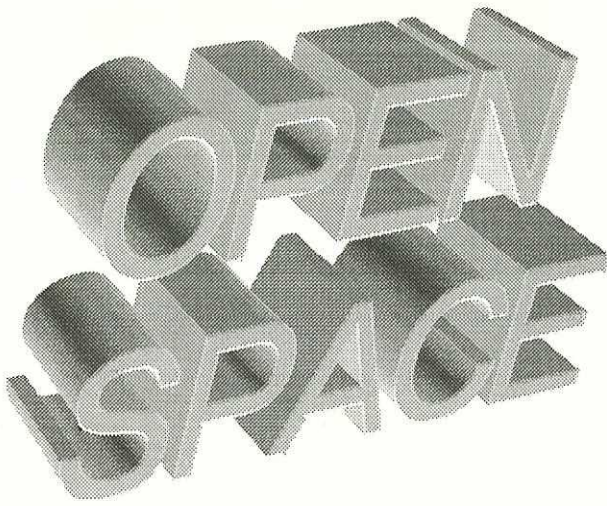
ただ、六二歳の時点であと何年生きられるかという部分があります。これは平均余命で考える以外ないわけですが、あと二〇年くらいでしょうか。そうすると、測量士になるための準備

期間とかインプットの期間が早くてこれから三年、それから自分でいろいろやるにはもう少し実務経験を積まないとだめですし、非常に限られた一五年ぐらいでできればいい方だと考えています。しかし、先ほどの伊能忠敬も遅れてのスタートで、五五歳の時に蝦夷地に行きました。その前の四八、九歳で引退してインプットしています。あの人はあまり体が強くなかったと思うのですけれども、それから七三歳まで元気におやりになりました。私も伊能さんを見習って、少しお役に立つようなことができればいいと思っています。気持ちの面はどうかかわらないですけれども、体力は学生時代からテニスで大分鍛えていますから。

■今日はありがとうございました。

(構成・高梨弘久)





HOTTA TSUTOMU

堀田 力

弁護士・さわやか福祉財団理事長

安らかで、いいお正月を迎えられたであろうか。

正直言って、二〇〇〇年、ビジネスマンが安らかにお正月を迎えられるような状況にはない。いよいよビッグバンの核心に近づきつつあるいま、政府にとっても企業にとってもビジネスマンにとっても何が起ころうもおおかしくないのである。

そんな客観的情勢の中で安らかにお正月を迎えられたとすれば、あなたは、よほど自分に自信があるか、家族の愛に包まれているか、とびきりの楽道家であるか、そのどれかであろう。

どのタイプであるにせよ、人間、安らかな気持ちでいることは、大切なことである。おどおどしていたり、いらいらしていたのでは、周りの人間が迷惑するし、本人も不幸である。そういう状態は免疫機能を低下させるそうだから、寿命を縮めることにもなる。

問題は、何かが起こった時である。アメリカ発のバブルの崩壊が、日本の経済をぶっとばした、うちだけはとどまっていたわが社が、朽

## 2000年 ビジネスマンの仕事と生活への提言

覚悟を決めたうえで安らかな気持ちに

本のごとく倒産した、突然人事部長に呼ばれ、リストラの対象であると告げられた。正月早々暗いばかりの想定で申し訳ないのであるが、依って立っていた基盤がゆらく大転換期には、何が起きるか誰にも予想は出来ないということ、刺激的に述べたというわけである。

だから、二〇〇〇年のビジネスマンは、何が起きてもいいとして、かり覚悟をしたうえで、なおかつ、安らかな気持ちでいたい。先のこととは一切考えず、無責任にその日暮らしをしているのでは、トータルな人生を幸せに過ごせるはずもないし、利根的な日々の暮らしの中で、うすら寒い不安と空しさがか心にのび寄るのを、どうすることも出来ないであろう。

では、どんな事態になってもいいと覚悟する方法は何か。

古来、東西の求道者がイエスやムハンマドや釈迦やその他もろもろの神や仏の使徒たちの言葉に、その答えを求めてきた。そのすさまじい努力の積み重ねがあつて未だなお邪宗がはびこる現状である。

私ごとがこの短い文章で答えを示せることなど、ありえない。

その答えを自ら探すのが生きるということである。そして、与えられた人生をどう生きるかは、それぞれの人々の責任だから、どんな答えをみつけるかは、すべてあなたにかかっていると見えよう。ただ私に言えるのは、あなたの生き方の幅が広ければ広いほど、不測の事態に対応できる幅も広がるということである。

倒産したり逮捕されそうになったりした時に、分別ざかりのビジネスマンが自殺するのは、まことに痛ましく、私には悔しくてならない。それまでの社会からもう少し眼を広げ、なせ別の生き方を探してくれなかったのか、あなたの才能をもってすれば、一つの社会での生き方には失敗しても、他の社会で十分自分を生かすことができるのに、どうして身をひるがえして新しい世界を求めてくれなかったのかと、惜しまれてならないのである。

自分が属している業界や特定の組織の中で、地位を少しも上げ



たいと、そのことに熱中するあまり、それがこの世のすべてだと思いついてしまっていないだろうか。日々降りかかってくる目の前の仕事に集中するあまり、仕事の外に無限に広がっている世界が全く目に入らず、家族の方々の心も分かんなく、肝心の自分についてすら、何がたくて生きているのかわからなくなっているのだろうか。それは大変革期の二〇〇〇年の生き方として、危ないというほかない。

最近倒産した大企業のある社員は、会社から提示された地方の企業のポストを断つた。今さら地方の企業で、しかも給料の額も部下の数も少なくなるなんて耐えられないし、家族も反対しているというのである。

彼は、一流企業に就職してきたことに誇りを持ち、ひたすら昇進をめぐらして夢中で働いてきた。勤務

先が一部上場企業であること、その中で同期のトップグループにいて出世していることが彼の絶対の誇りであり、妻や子供に語るのも、昇進の自慢ばかりであった。その

会社が倒れ、唯一の価値基準がくずれ去っても、彼は、その価値基準を捨てられない。それを捨てると自分が空っぽになってしまうからである。だから、彼は、あつせんされた地方の会社を受け入れることが出来なかった。そして、家族も、常に彼からその価値基準をふき込まれているから、彼が地方の企業に行くことに反対した。

その後、彼とその家族がどうされたかについては、情報がない。彼の同僚で、喜んで地方の企業に就職した人がいる。その人は、営業の能力に自信を持っており、

地方の企業がその能力をフルに生かすという条件を出してくれたことに感謝した。子供の学校の関係

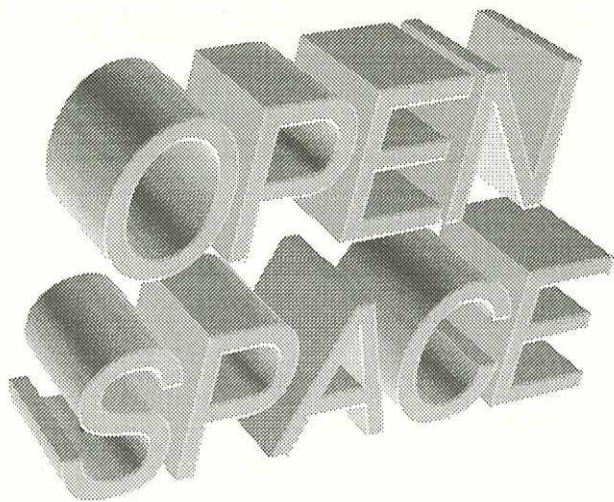
で単身赴任にはなるが、家族も、彼がいきいきと好きな仕事を出来ることを大切にし、喜んで彼を送り出した。奥さんは生活のためにスーパーで働き、子供たちも学費のたしにしたいとアルバイトをはじめた。家族も彼にいきがいを持って生きて欲しいから、それぞれに協力したのである。

人間、誰しも、もつとも大切なものは、自分である。そして、自分を大切に生きていくと、人間として普通の感覚を持った人であれば、家族や自分の周りの人たちの生き方も、大切にしようになつてくる。

そういう感覚を取り戻せば、組織の中で自分を失い、地位を絶対視するような価値観から解放され、自分の属する組織や外の世界があるのままに見えてくるのであろう。その視点さえ身につけば、何が起きているかを見失わず、生きる道を見つけられるという自信が湧いてくるに違いない。

このお正月は、自分を確かめて、安らかな気持ちになつてほしいと願っている。





IWAMATSU RYO

岩松了

劇作家・演出家

劇作家とか演出家とか呼ばれるからそれが私の職業ということになるのだが、我ながら思いもかけない職業についてしまったと思う。大学に入るまでは、演劇などこれっぽっちも興味がない人間だったからである。

大学でひよんなことから演劇部に属するようになり、大学そのものにもどうも充たされないものを感じたがために、自分の身の寄せどころとして演劇に接しつづけた。

大学を中退し、確たる意志もないまま演劇をつづけ、「演劇など好きではない」と思いつづけた。けれども、他に身を寄せたいものも何もなかった。そして、ずるずると演劇とかかわりつづけた。

私は、成瀬巳喜男監督の『浮雲』という映画が好きで、原作の小説も好きなのだが、この『浮雲』における富岡と雪子のずるずるとつづく関係が、まるで私と演劇の関係に似ていると思ったりする。

人はどうやって職業を決めてゆくのだろう。私のように、ふらふらと、いわば非主体的に何らかの職業についてしまう人も多いので

## 職業という難物

はあるまいか。と言うのは、私は「演劇など好きではない」と思っているからそれをつづけている頃、「結局、人間にはやるべきことなど何もないのではないか」と思いつづけていたからだ。

鉄工所がなくても、銀行がなくても、文房具屋がなくても、レストランがなくても、秋葉原に電気屋さんがなくても、電車が走らなくても、郵便が来なくても、人は生きてゆけるし、それで充たされる生き方はあるはずだ、そう思った。

子供心に「電車の運転手になりたい」と思い、学校を卒業して実際、電車の運転手になった人がいるとする。このことはどう考えればいいのか。むろん、その人は、その職業につくことが「電車を運転する」だけでないことを知るだろう。けれども、こうして職業が選べたということは、当人にとって実に幸いなことではないだろうか。自分が何かを欲求する人間であるのだと意識することなく欲求し、はからずも「その人」という人物像をつくりあげていたことは。

## ベトナムにいる息子

田村 志津枝

(ノンフィクション作家)

私はどうも人づきあいへただ。それでも長い歳月のうちに、世界のあちこちに友人ができた。ベトナムの中部、ホイアンという小さい町に住むヤンさんも、その一人だ。

ホイアンは、石畳の道に石造りの古い屋敷がならび、路地には井戸がぽかんと口をあけているのどかな町だ。ヤンさんは土産物を買っていた。通りすがりに話をかわしたただけなのに、ヤンさんは臨月の大きなおなかをかかえ、店をほったらかして町を案内してくれた。大河に面したレストランで食べた魚の、なんとおいしかったことか。

ヤンさんの両親は、海南島が日本軍に占領されたとき、ここに逃げてきた。ヤンさんは、12歳のときベトナム社会主義共和国が成立し、通っていた中華学校が閉鎖されて学校をやめた。

それでも私とヤンさんは、ときおり北京語で手紙をかわす。ヤンさんに女の子が生まれたとき、上の坊やが入学したときは、ささやかなお祝いを送った。ところが昨年、ヤンさんはこんなことを書いてきた。

「あなたは、娘さんが一人いるだけでしたね？ だったら私の息子を、義理の息子にしませんか？」

えっ、義理の親って何をするの？ それもわからないのに、あの灼熱の美しい町に息子をもつという誘惑に負けて、「いいわよ！」と返事を出した。季節ごとに写真が来る。丸い目の利発そうな顔が、少しずつ大人びてゆく。いまのところ私は、ただ写真を眺めて頬をゆるめているだけだ。

つまり「その人は子供の頃からの夢を叶えた人だ」と。

「その人」はなぜ「電車に対して特別の感情はない」という無限の可能性から逃れ、「電車の運転手になりたい」という身もフタもない有限の中に自らを置くことが出来たのだろう。自分で決めてゆくと、いう自らの暴挙をなぜに許容出来たのだろう。いや、正確に言えば、なぜそんなことを考えずにすんだのだろう。

私は九州の片田舎から東京とい

う都会に出てきた。大学に入るという名目で。私の欲求はそれだったのだ。

「都会の人間になりたい」

それは職業ではなかった。その欲求を果たした私は「結局、人間にはやるべきことなど何も無いのではないか」と思いはじめたのだ。私は自分の職業がこうなったことに関して中国から輸入されたパングのオスとメスが同じひとつのオリの中に入れられていた状況を考えて描く。互いはなかなかその気分を肯定すること。

にならなかつたが、結局……。

子孫まで増やしてしまつた今思うのは、過ぎ去つたものをすべて肯定してゆくことだということ。ふらふらとつづけたとか、ひよんなことからはじめたとか、嫌いだと思ひながらつづけたとか言っているけど、その曖昧さも、偶然性も、否定したかつたことも、その時の自分が求めたことなのだとか肯定的に見てゆくこと。とりわけ、何も決めることの出来なかつた自分を肯定すること。

人は何かと何かの間に、「差」を感じ、「違い」を感じ、何かを欲求するのだからけれど、その「差」や「違い」を感じるこの出来なかつた自分、あるいはこれからも感じるこの出来なかつた自分、肯定してゆくこと。ひいては自分の職業を肯定してゆくこと。

『浮雲』の富岡が遂に屋久島に赴いた、あんなことがいつか私に訪れぬとも限らない。



# ここに人あり

## —まちづくりと人—



### 第4回

## 日本大正村と 澤田正春さん、村民の人たち

昇 秀樹 (名城大学教授)

大正村資料館  
入場者数(人)

平成元年	(89,824)
平成2年	(105,430)
平成3年	(108,486)
平成4年	(110,050)
平成5年	(115,129)
平成6年	(142,110)
平成7年	(142,891)

### 日本大正村

故澤田正春さんが知恵(アイデア)を出し、村民が大事に大事に育てた村。「「サギだ」といわれた大正村」を「心かようホンモノの大正村」に育てあげた住民の人々。元気なおじいちゃん・おばあちゃんのボランティアが大正ノスタルジーを感じる住民主導・ソフト先導型のユニークなテーマパーク。

### 大正村は「ボランティアの村」

一九九九年一〇月一七日(日)、第九回「大正村掃除に学ぶ会・全国交流会」に「ボランティア」として参加しました。

日本全国からあつまったトイレ掃除のボランティアたちが日本大正村と小・中・高等学校のトイレ、その周辺を掃除し(八時四〇分〜十一時)、明智小学校の芝生広場でとん汁とつけもの、ご飯の昼食をいただき(十一時〜十二時)、明智小学校体育館での体験発表、意見交換(十二時〜一三時)をおこない、大正村民のあたたかみを感じました。

たかい見送りの中、全国へと散会していききました。

日本大正村は「ボランティアの村」なのです。この村はまったくの町民ボランティアで、九千万円弱の予算で運営されています。さまざまなイベント企画から各施設の日々の運営、観光客のガイドまで二九八名の大正村実行委員会の手でおこなわれているのです。

だからここで「大正村掃除に学ぶ会・全国交流会」が毎年開かれ、全国から大正村にボランティアをするためにたくさんの人々があつまってくるのです。

### 澤田さんが知恵を出し、村民がボランティアで育てた大正村

日本大正村。このユニークな村、テーマパークは一九八四年(昭和五九年)岐阜県明智町で「立村式」がおこなわれ、ハード、ソフトの整備がすすめられ、一九八八年(昭和六三年)四月一日に「正式開村」しています。

一九八三年(昭和五八年)、赤字経営で苦しむ国鉄(当時。現在はJR)が明智線を廃止するため明智町が大揺れしていたとき、「当時よく明智町を訪れていた文芸写真家・澤田正春さん」当時木曾駒ヶ岳の山小屋に独居・故人が大正文化の色濃く残る静かな山里の明智町に魅せられ、「日本大正村づくり」を提案したのがきっかけで、町の活性化を目的に大正村建設構想が具体化(「日本大正村最新ガイドブック」・

財団法人日本大正村発行・一九九六年・三五頁）していくこととなります。

でも正直いって、この明智町にそれほどたくさん大正時代の建築物・大正時代の民俗・風習が残っている訳ではありません。犬山市にある名古屋鉄道グループが経営するテーマパーク「明治村」と比べれば、明智町の「日本大正村」の建築・展示物は貧弱といわざるをえません。

ところが、地元の人たちもみとめている「こんな平凡な田舎町」が日本のどこにもあるような田舎町で立村をおこない、大正村の看板を揚げた翌年には年間七万二千人、その翌年には一六万人、今では毎年およそ四〇万人〜五〇万人の観光客が訪れるようになりました。大正村が開村されるまで観光客などほとんど見かけなかった地域が大正村の看板を掲げただけで一挙に何十万人もの人があつまるとなる観光地に大変身したのです。

おどろいたり、困ったりしたのが住民の人たちです。「大正村という看板を揚げただけで人があつまりだしたのだから『えらいことになった』というのが人々の実感で、なんとかしないとサギになると本気で心配し、必死で奔走」（町ぐるみ日本大正村）、「百歳・万歳」・一九九八年六月号七五頁）することになります。

「議会でもよく批判されましたよ。なんにもないところに大正村だなんてサギじゃないかねってね」大正村建設にふみ切った一九八三

年当時、明智町の助役をしていた平林典三さんのことばです。

「なんにもないところだわねえ。でも、みんな町をなんとかしようとしている。その熱意がひしひし伝わってくるのよ。」（前掲「町ぐるみ日本大正村」七六頁）、日本大正村の初代村長になった女優の故高峰三枝子さんのことばです。

ちなみに高峰さんも二代目村長の司葉子さんも初代議長の故春日野清隆日本相撲協会理事長もボランティアで大正村に協力しています。

### 町役場が施設を整備し、 運営は住民ボランティアで

「日本大正村」は行政上の地方自治体ではありません。人口七千人強の明智町の中に点在する大正の諸施設の総称であり、それらを「財団法人日本大正村」が運営する仕組みとなっています。

ですから明智町には二つの役場があります。行政を担当している明智町役場は街の南側にあり、施設の整備や河川散策道の修景、看板設置などハード整備を主に担当しています。一方、施設の運営などのソフト面は住民組織・ボランティアの日本大正村が対応するという役割分担になっています。その本拠地が「日本大正村役場」で街のほぼ真ん中、少し北側に位置しています。明治三十九年から昭和三二年まで町役場として使われていた建物が日本大正村役場として

「幸せな第二の人生」を送っている訳です。

### 若者が知恵を出し 年寄りが行動する。大正村

大正村を散策してみると、「この街のお年寄りが元氣」なことに気がつきます。

①明智駅の観光ボランティアのおばあちゃんも、②大正村駐車場駐輪場、レンタサイクルのおじいちゃんも、③大正村資料館でお茶を入れてくれたおばあちゃんも、みんなボランティアでいきいきと行動しています。（村の立ちあがりのときは完全な無償奉仕でしたが、それでは長つづきしないと、今は弁当代を支給していますから、正確には有償ボランティア。しかし「限りなく無償に近い有償ボランティア」といっていいでしょう。）

大正村役場でもしろいキャッチコピーをみつけました。大正村の活動スローガンは「若者が知恵を出し年寄りが行動する」だそうです。

「大正コロッケ」が正にそれです。何もなし大正村に名物をつくらうと商工会青年部が思いついたのが大正時代の人気商品コロッケ。

今、大正村の中の精肉店、レストランでは昔なつかしい大正村コロッケを味わうことができます。「若者が知恵を出し年寄りが行動」している訳です。昭和（戦後）平成生まれが知恵を出し、昭和（戦前）生まれが行動する……その点でも大正村はユニークな村なのです。

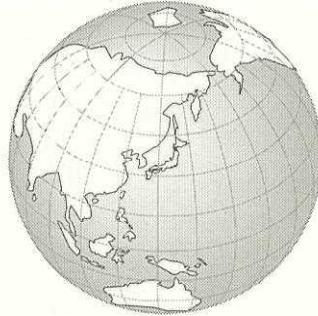


# 学生募集中

企画から調査・設計・施工・管理・監督・検査まで  
一貫した建設専門技術教育

工業専門課程(昼間)

- 測量科(4月・10月生)(1年)
- 測量工学科……………(2年)
- 測量調査専攻
- 地図情報専攻
- 測量土木技術科……………(2年)
- 環境土木工学科……………(2年)
- 都市工学科……………(2年)
- 造園緑地工学科……………(2年)
- 設備工学科……………(2年)
- 土木地質工学科……………(2年)
- 地図デザイン科……………(1年)



国土の建設を支える

工業専門課程(昼間)

- 環境土木工学科……………(2年)
- 建築環境工学科……………(2年)
- 建築コース
- 設備コース
- ▣ 環境景観緑地工学科……………(2年)
- 測量工学科……………(1年)

卒業時または卒業後の特典

- 印学科…測量士補(卒業時無試験取得)  
測量士(実務2年無試験取得)
  - ◎ 印学科…地質調査技士(実務2年無試験取得)
  - 印学科…地図製図士2級(卒業時取得)
  - 1・2級 土木・管工事・造園施工管理技士  
(実務2~5年で受験資格)
- その他各種特典あり。

ISO9002  
教育界で日本初!!  
平成12年1月19日取得  
(測量土木コース)

建設大臣指定校 学校教育法に基づく工業専門学校

## 国土建設学院

学院長 上條勝也

〒187-0044 東京都小平市喜平町2-1-1  
[入学案内] 送料共無料… ☎042-321-6909 [入学相談室]  
ホームページ <http://www.meirinkan.ac.jp/kokudo/>

卒業時または卒業後の特典

- 印学科…測量士補(卒業時無試験取得)  
測量士(実務2年無試験取得)
  - 印学科…1級建築士(実務4年受験資格)  
2級建築士・木造建築士(卒業時受験資格)
  - 印学科…1・2級土木施工管理技士
  - ☒ 印学科…1・2級管工事施工管理技士
  - ▣ 印学科…1・2級造園施工管理技士
- (実務2~5年で受験資格)  
その他各種特典あり。

環境ISO  
専門学校で日本初!!  
平成10年10月30日取得



建設大臣指定校 学校教育法に基づく工業専門学校

## 九州理工学院

学院長 原田美道

〒889-1702 宮崎県宮崎郡田野町桜ヶ丘乙1730-2  
[入学案内] 送料共無料… ☎0985-86-2000 [入学相談室]  
ホームページ <http://www.meirinkan.ac.jp/kyusyu/>  
e-mail : kyusyu@meirinkan.ac.jp

学校法人明倫館

名譽理事長 上條勝久 理事長 上條勝也

〒187-0044 東京都小平市喜平町2-1-1 TEL.042-321-6909(代表)

# 財団法人 全国建設研修センター

## 新しい国づくりと 人材育成

### 主な業務

- ◆国、地方公共団体、公団、公社、民間の職員研修
- ◆建設業法にもとづく土木工事、管工事、造園工事の技術検定および土地区画整理法にもとづく技術検定
- ◆国際協力研修及び国際交流
- ◆建設研修及び建設技術等の調査研究
- ◆建設工事の施工技術に関する調査
- ◆民間測量技術者の養成



【本部事務所】東京都小平市喜平町2-1-2

☎042(321)1634

【東京事務所】東京都千代田区永田町1-11-32

☎03(3581)6111

### 出版案内

#### ■ 建築設備設計基準・同要領

平成10年版 定価 12,600円

#### ■ 建築設備設計計算書作成の手引

平成10年版 定価 3,885円

#### ■ 建築設備設計計算書書式集

平成10年版 定価 3,570円

#### ■ 建築設備計画基準・同要領

平成8年版 定価 5,300円

#### ■ 排水再利用・雨水利用システム 計画基準・同解説

平成9年版 定価 7,350円

#### ■ 下水道維持管理の手引

定価 5,403円

#### ■ 下水道事業の手引

平成10年版 定価 5,565円

#### ■ 下水道計画の手引

平成9年版 定価 5,775円

#### ■ 用地取得と補償 新訂3版

11月発行予定

#### ■ 改良復旧事業の手引

平成7年版 定価 4,587円

#### ■ 技術革新と国土建設

谷藤正三著 定価 6,321円

☐各図書の定価は税込みとなっております。

☐送料は実費です。

☐購入ご希望の方は、書名と部数をご記入の上、現金書留で下記あてにお申込み下さい。



研修名	期日・人数	目的および対象者
用地一般 (Ⅰ)(Ⅱ)	5月・10月 各60名・各12日間	地方公共団体等の用地事務を担当する実務経験2年未満の職員を対象に、用地取得等の理論と実務について基礎的知識の修得をはかる。
用地専門	12月 50名・5日間	起業者または委託により用地業務に携わる職員で用地補償の基本的知識のある者を対象に、特殊な補償における専門的知識の修得をはかる。
用地事務(土地)	1月 50名・5日間	地方公共団体等の用地業務に携わる職員を対象に、用地取得等について基礎的知識の修得をはかる。
用地事務(補償)	1月 50名・5日間	地方公共団体等の用地業務に携わる職員を対象に、損失補償等について基礎的知識の修得をはかる。
補償コンサルタント (用地基礎)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	4月 各60名・各5日間	補償コンサルタント業務を行う職員の資質の向上をはかるため、公共用地の取得に関する基礎的知識の修得をはかる。
補償コンサルタント専門 (物件、営業補償、特殊補償、事業損失部門)	6月・7月 各60名・各5日間	補償コンサルタント登録部門の専任管理者または、これに準ずる職員を対象に、補償に関する専門的知識の修得をはかる。
用地補償専門 (ゼミナール)	11月 40名・5日間	公共用地取得業務に携わる基礎的知識のある職員を対象に、実務的な講義、事例研究等を通じて必要な実践的問題解決能力の向上をはかる。
土地・建物法規実務	6月 40名・4日間	土地・建物にかかわる業務に携わる職員を対象に、土地・建物に関する民法等の関連諸法規について基本的に必要な知識の修得をはかる。
土地家屋調査 －不動産登記実務－	6月 50名・5日間	不動産登記、土地家屋調査に携わることとなる者を対象に、その業務に関し基本的に必要な知識および実務の修得をはかる。
不動産鑑定 －土地価格等の評価手法－	10月 60名・5日間	土地評価業務に携わる職員を対象に、不動産鑑定および公共用地等の評価にかかわる基本的知識の修得をはかる。
地価調査等担当者	5月 80名・4日間	都道府県ならびに指定都市の地価調査・価格審査担当職員を対象に、土地評価に関する基礎的な知識の習得をはかる。
土地調査員	9月 60名・5日間	都道府県ならびに指定都市の土地調査員を対象に、土地調査員に必要な基礎知識の習得をはかる。
都市計画一般	5月 70名・12日間	地方公共団体・都市計画コンサルタント業界等で、都市計画業務経験2年以下の職員を対象に、都市計画業務に必要な基礎的知識の修得をはかる。
都市計画街路一般	10月 40名・12日間	地方公共団体、都市計画コンサルタント業界等で、都市計画街路業務経験2年以下の職員を対象に、都市計画街路事業に必要な基本的知識の修得をはかる。
都市再開発一般	10月 40名・5日間	地方公共団体、民間等で都市再開発業務に携わる職員を対象に、都市再開発に関する基本的に必要な知識の修得をはかる。
都市デザイン	12月 50名・5日間	地方公共団体、民間業界等において、都市デザイン業務に携わる職員を対象に、都市デザインに関する専門的知識の修得をはかる。
ゆとり(遊)空間デザイン	8月 50名・5日間	都市計画、地域計画に携わる職員を対象に、「ゆとり」「あそび」の視点のもとづく空間創造とデザインに関する専門的知識の修得をはかる。
宅地造成技術	6月 70名・5日間	宅地造成工事の設計・施工・監督・許可事務等を担当する職員を対象に、宅地造成技術の専門的知識の修得をはかる。
大規模開発	9月 50名・5日間	「大規模開発相談員」に相当する職員を対象に、審査手続の進行管理促進の方策、関係法令との調整方法等広範囲な知識の修得をはかる。
耐震技術	10月 40名・4日間	国、地方公共団体、民間等で防災耐震構造関係業務に従事する職員を対象に、防災耐震構造に関する専門的技術の修得をはかる。
下水道	11月 60名・5日間	下水道の計画・設計・施工業務に携わる経験2年未満の職員(日本下水道協会会員を除く)を対象に、基本的な知識の修得をはかる。

# 平成11年度研修計画

研修名	期日・人数	目的および対象者
下水道積算実務	5月 40名・5日間	下水道工事の設計・積算・契約等の業務に携わる職員を対象に、主として排水施設等の工事契約ならびに積算手法についての基礎的知識の修得をはかる。
小規模下水道	7月 40名・4日間	下水道事業に携わる職員を対象に、小規模管路・処理施設の整備や省資源、省工ネ、省力化等について必要な基本的な技術・知識の修得をはかる。
河川一般	10月 50名・5日間	中小流域の河川に係わる業務に携わる職員を対象に、中小流域の河川に係わる最近の課題に対応するために必要な知識の修得をはかる。
市町村河川	11月 50名・5日間	地方公共団体(市町村)において、準用河川改修、河川環境整備、都市小河川改修事業等に携わる職員を対象に、市町村河川の調査・計画・工事・管理に関する基礎的な知識の修得をはかる。
河川技術(演習)	7月 60名・5日間	河川の調査・計画・設計等に携わる職員を対象に、河道計画等の演習により必要な知識の修得をはかる。
河川構造物設計一般	6月 50名・11日間	河川構造物の設計業務を担当する職員を対象に、河川構造物等の機能設計に必要な知識の修得をはかる。
砂防一般	7月 40名・5日間	地方公共団体、公団、公社、コンサルタント等の職員を対象に、砂防に係わる最近の課題に対応するために必要な知識の修得をはかる。
砂防等計画設計	10月 40名・11日間	砂防・地すべり・急傾斜地等の調査設計業務に関し、実務経験2年程度の職員を対象に、砂防事業に必要な理論・設計手法等の専門知識の修得をはかる。
災害復旧実務	1月 50名・5日間	地方公共団体等で災害復旧業務に携わる実務経験3年未満の職員を対象に、災害復旧の実務に必要な知識の修得をはかる。
災害復旧実務 中堅技術者	5月 50名・5日間	地方公共団体等で災害復旧業務に携わる実務経験3年以上の職員を対象に、災害復旧の実務に必要な専門知識の修得をはかる。
水資源	10月 40名・5日間	水資源計画に経験の浅い職員を対象に、水資源計画に関する専門的知識の修得をはかる。
河川総合開発 一ダム設計一	5月 60名・5日間	ダム事業に携わる中堅技術職員を対象に、最近のダム課題に対応するために必要なダムの調査設計に関する総合的な知識の修得をはかる。
ダム工事技術者一般	2月 50名・12日間	土木建設工事に従事する技術職員を対象に、ダム工事に関する基礎的知識の修得をはかる。
ダム工事技術者中堅	2月 50名・17日間	土木建設工事に従事するダム工事の実務経験5年以上の中堅技術職員を対象に、ダム工事の専門的な高度の技術・知識の修得をはかる。
ダム技術者上級	5月 60名・5日間	小規模ダム工事総括管理技術者の認定に係る審査等を受験しようとする者を対象に、その資質の向上をはかる。
ダム管理	12月 40名・5日間	国、地方公共団体、公団等のダム管理業務に携わる技術職員を対象に、ダム管理に必要な知識の修得をはかる。
ダム管理 (操作実技訓練)	5月～1月 各6名・各3日間	国および地方公共団体等のダム管理所において、ダム操作に従事している職員を対象に、ダム操作に関する技術の修得をはかる。
ダム管理主任技術者 (学科1回・実技14回)	学科84名、4月・5日間 実技各6名・5月～9月 ・各3日間	河川法第50条に基づく管理主任技術者及びその候補者を対象に、ダムの安全管理に必要な知識・技術の修得をはかる。
ダム管理技士 (実技試験)	10月～12月 各6名・各3日間	ダム管理技士認定試験の学科試験に合格した者に実技試験を行う。
道路計画一般	11月 70名・10日間	道路等の調査・設計業務に携わる職員を対象に、道路の調査・計画および設計に関する知識の修得をはかる。
道路舗装	7月 60名・5日間	地方公共団体等で舗装業務に携わる実務経験3年程度の職員を対象に、舗装に関する知識と技術の修得をはかる。



研修名	期日・人数	目的および対象者
道路技術一般	5月 50名・9日間	道路建設工事に従事する業界技術職員で、一定の資格を有する者を対象に、主任技術者養成のための必要な施工技術の修得をはかる。
道路技術専門	6月 80名・5日間	道路建設工事に従事する業界上級技術職員で、一定の資格を有する者を対象に、舗装に関する専門的な高度の知識の修得をはかる。
道路管理	9月 60名・11日間	地方公共団体等で道路管理業務を担当する職員を対象に、道路管理に必要な知識の修得をはかる。
透水性・排水性舗装	6月 50名・4日間	建設事業に携わる技術職員を対象に、透水性・排水性舗装等についての理論および設計・施工などの専門知識の修得をはかる。
市町村道	12月 60名・5日間	市町村道業務に携わる職員を対象に、市町村道に関する総合的な専門知識の修得をはかる。
地質調査 (土質・岩盤・地下水コース)	4月 70、50、50名・各5日間	国、地方公共団体および業界等において地質調査業務に従事する技術職員を対象に、地質調査の専門的な知識の修得をはかる。
土質設計計算(演習) (Ⅰ)(Ⅱ)	10月・12月 各50名・各4日間	土質設計の業務に携わる技術職員を対象に、土質設計に関する専門的知識の修得を演習を通じてはかる。
地盤処理工法	5月 40名・5日間	建設事業に携わる実務経験3年程度の技術職員を対象に、建設工事にかかわる軟弱地盤改良工事に関する専門的な知識・技術の修得をはかる。
補強土工法	12月 40名・5日間	地盤改良工事に携わる職員に対し、設計・計算演習により、補強土工法の設計・施工に関する最新の知識と技術の修得をはかる。
くい基礎設計	4月 70名・5日間	土木構造物の設計関連業務に携わる職員を対象に、くい基礎の構造理論、設計手法の専門的知識の修得をはかる。
地すべり防止技術	5月 50名・9日間	地すべり調査および防止対策に従事し一定の実務経験年数を有する技術職員を対象に、より有効な災害防止を行うために必要な専門的知識の修得をはかる。
斜面安定対策工法	9月 70名・4日間	建設事業に携わる職員を対象に、のり面の崩壊防止、保護工等の安定対策工事についての調査・設計・施工の専門的知識の修得をはかる。
橋梁設計	8月 70名・12日間	橋梁の設計業務に携わる職員で、実務経験3年未満の者を対象に、橋梁の計画・設計に必要な理論及び設計手法などの必要な知識・技術の修得をはかる。
鋼橋設計・施工	2月 50名・5日間	橋梁の設計・施工に関する基礎知識を修得した職員を対象に、橋梁の製作・架設・維持補修等に関する総合的な専門知識の修得をはかる。
プレストレスト・ コンクリート技術	10月 50名・5日間	建設事業に携わる職員を対象に、プレストレスト・コンクリートに関し、主としてPC橋を中心に必要な基礎的知識・技術の修得をはかる。
橋梁維持補修	12月 50名・5日間	橋梁の管理業務に携わる職員を対象に、橋梁の維持・補修について、現状診断、補修方法等に関する基本的な知識と技術の修得をはかる。
シールド工法一般	6月 50名・4日間	初めてシールド工事に従事する技術職員を対象に、シールド工事の施工に関し、基本的に必要な技術・知識の修得をはかる。
シールド工法中級	10月 50名・4日間	シールド工事に携わる基本的知識を有する職員を対象に、シールド工事の施工に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
ナ ト ム (工 法)	2月 60名・5日間	土木建設工事に従事する経験の浅い現場技術職員を対象に、ナトム工法の設計・施工等に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
ナ ト ム (積 算)	7月 50名・4日間	トンネル工事等(ナトム)の設計、積算等の業務に携わる職員を対象に、ナトムについて、積算上の施工の考え方と、積算手法の基本的な知識の修得をはかる。
推進工法	8月 70名・4日間	下水道推進工事に携わる中堅技術職員を対象に、推進工法の設計・施工に関する専門的な技術・知識の修得をはかる。

# 平成11年度研修計画

研修名	期日・人数	目的および対象者
推進工法積算実務	4月 50名・4日間	下水道推進工事の設計・積算業務に携わる経験の浅い職員を対象に、下水道推進工事の設計・積算についての専門知識の修得をはかる。
トンネル補強補修	9月 40名・3日間	トンネル保守管理業務に携わる職員に対し、トンネルの点検調査、補強、補修の効果的な対策等に関する専門的な知識と技術の修得をはかる。
道路トンネル付属施設設計・施工	2月 40名・4日間	道路トンネルの計画・設計、管理業務に携わる職員を対象に、道路トンネル各付属施設の計画・設計、施工、維持管理に必要な専門知識の修得をはかる。
土木積算体系 —公表歩掛による積算—	1月 50名・5日間	土木工事積算業務に携わる職員に対し、土木工事積算に関する基礎知識の修得をはかる。
土木工事積算	5月 60名・5日間	地方公共団体等において土木工事積算業務を担当する職員を対象に、土木工事および設計業務委託等積算に関する知識の修得をはかる。
土木工事監督者	7月 70名・10日間	地方公共団体等で、土木工事の施工監督業務に携わる職員に対し、施工管理、監督業務に必要な基本的知識の修得をはかる。
工程管理 (基本)	7月 50名・3日間	建設事業に携わる土木系職員を対象に、工程管理の基本的な考え方を理解するとともに、演習を通してその手法と利用法の修得をはかる。
品質管理	9月 40名・5日間	公共工事の設計・監督・検査等に携わる職員に対し、品質確保に必要なISO規格、建設CALS等品質管理に関する知識の修得をはかる。
ISO規格(品質管理) —マネジメントシステムの構築—	2月 40名・4日間	建設事業に携わる職員を対象に、ISO規格の導入、マネジメントシステムの構築等、社会構造の変化に対応する専門的知識の修得をはかる。
仮設工	11月 60名・5日間	建設事業に携わる職員を対象に、仮設工(土留、仮締切、型枠、支保工、仮設栈橋等)の設計・施工に関する知識・技術の修得をはかる。
近接施工	9月 50名・4日間	建設事業に携わる技術職員を対象に、各種既設構造物に対しての近接施工について調査・設計手法・対策工法などの専門知識の修得をはかる。
港湾工事	7月 50名・4日間	港湾工事に関し実務経験の浅い職員を対象に、港湾工事に関し基本的に必要な知識の修得をはかる。
コンクリート構造物の維持管理・補修	9月 50名・3日間	建設工事に携わる技術者を対象に、コンクリート構造物の維持管理・補修に関する専門的知識の修得をはかる。
シビックデザイン —土木施設デザイナー—	8月 50名・5日間	市町村、コンサル、施工業者等で調査、計画、設計又は施工業務に携わる職員を対象として、景観に配慮し、デザイン的に質の高い土木施設のデザインに関する専門的知識・技術の修得をはかる。
環境(生態)デザイン (I)(II)	8月・11月 各50名・各5日間	建設事業に携わる職員を対象に、建設事業の施設計画にあたり必要なエコロジカルな知覚とエコロジカルデザインとに関する専門的知識の修得をはかる。
花と緑 —ガーデニングの実務—	2月 50名・4日間	国・地方公共団体・民間等の職員で花と緑(ガーデニング)の業務に携わる職員(緑化相談員等を含む)を対象に、花と緑のデザイン、植栽に関する基本的な知識・技術の修得をはかる。
環境アセスメント	2月 60名・5日間	環境アセスメントに関する業務に携わる職員を対象に、建設事業に伴う環境アセスメントに関する専門的な技術・知識の修得をはかる。
建設リサイクル	1月 40名・5日間	建設資源のリサイクル対策等に携わる職員を対象に、建設副産物の発生抑制・処理・再生利用に必要な知識・技術の修得をはかる。
公共工事契約実務	10月 40名・4日間	公共工事契約に携わる国、地方公共団体、公団、公社等の職員を対象に、公共工事契約の実務に関する基礎的な知識の修得をはかる。
公共工事と埋蔵文化財	2月 40名・4日間	建設事業に携わる職員を対象に、公共工事の執行と事業の進展に重要な部分を占める埋蔵文化財への対応、取扱いに関する専門的知識の修得をはかる。
危機管理	1月 40名・5日間	市町村の防災業務に携わる職員を対象に、災害発生時における実践的な模擬演習を主体とした危機管理能力の養成と専門的知識の修得をはかる。



## 平成11年度研修計画

研修名	期日・人数	目的および対象者
情報技術利用 —建設分野における身近なパソコン利用—	5月 40名・4日間	建設事業に携わる職員を対象に、建設分野における身近なパソコン利用を通じて最新の電子化、情報交換・活用方法等を知り、職員の情報活用能力の向上を図る。
データベース	6月 40名・4日間	建設事業に携わる職員を対象に、データベースの構築と活用からインターネット並びに最新ネットワーク技術に関する情報と知識の修得をはかる。
建築指導科 (監視員)	6月 60名・12日間	建築指導行政を担当する職員を対象に、建築監視員としての実務知識の修得をはかる。
建築計画	2月 40名・4日間	国、地方公共団体、公団、公社等ならびに民間において建築業務に従事する者に対し、建築の計画に必要な専門的知識を数種の具体的な建築計画を通じて修得をはかる。
建築新技術	9月 40名・3日間	建築構造設計業務に携わる者を対象に、最近の建築業界における免震・制振（震）等の新技術についての基本的知識の修得をはかる。
建築（設計）	11月 40名・10日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築業務を担当する職員を対象に、建築設計に関する必要な知識を演習を通じて修得をはかる。
建築（積算）	9月 40名・5日間	国、地方公共団体、公団、公社等で建築積算に従事する職員を対象に、建築積算の実務に必要な専門知識を演習を通じて修得をはかる。
建築構造 (RC構造)	7月 40名・9日間	国、地方公共団体、民間建築業界で建築構造設計業務に携わる職員を対象に、建築構造（RC構造）に関する専門的に必要な知識の修得をはかる。
建築設備積算	1月 40名・5日間	国、地方公共団体、公団、公社等で建築設備積算に携わる職員を対象に、建築設備工事積算に必要な知識の修得をはかる。
建築設備(空調)	11月 50名・10日間	国、地方公共団体、公団、公社、民間建築業界で建築設備を担当する職員を対象に、建築空調設備について必要な知識の修得をはかる。
建築設備(電気)	1月 50名・10日間	国、地方公共団体、公団、公社、民間建築業界で建築設備を担当する職員を対象に、建築電気設備について必要な専門知識の修得をはかる。
建築工事監理	11月 60名・5日間	国、地方公共団体、公団、公社、民間設計業界で施工監理業務を担当する職員を対象に、建築施工監理(設備工事を除く)に必要な知識・技術の修得をはかる。
建築保全	1月 40名・5日間	国、地方公共団体、公団、公社、民間建築業界で建築保全業務に携わる職員を対象に、建築保全に関し基本的に必要な知識の修得をはかる。
マンションリフォーム	7月 40名・5日間	マンションリフォームに携わる技術者を対象に、設計・製図の実技等マンションリフォームマネジャー相応の知識の修得をはかる。
第一級陸上特殊 無線技士	1月 50名・12日間	第一級陸上特殊無線技士の資格を取得するため、郵政大臣が定める実施基準に適合した講習(講義・修了試験)により無線従事者を養成する。

## 研修の問合せ先

財団法人 全国建設研修センター

研修局 〒187-0540 東京都小平市喜平町2-1-2

☎ 042(324)5315(代)

ホームページアドレス：http://www.jotc-f.or.jp

# 平成11年度技術検定試験

種 目	受 験 資 格	試験実施日 (平成11年)	試 験 地	申込受付期間 (平成11年)
一級土木施工管理 技 術 検 定 学 科 試 験	短大卒以上の学歴で、学歴により 所定の実務経験年数を有する者。 二級土木施工管理技士で所定の実 務経験年数を有する者。	7月4日(日)	札幌・釧路・青森・ 仙台・東京・新潟・ 名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・那覇	3月17日から 3月31日まで
一級土木施工管理 技 術 検 定 実 地 試 験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	10月3日(日)	札幌・釧路・青森・ 仙台・東京・新潟・ 名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・那覇	8月17日から 8月31日まで
二級土木施工管理 技 術 検 定 学 科・実地試験 (土木・鋼構造物塗装・薬液注入)	学歴により所定の実務経験年数を 有する者。	7月18日(日)	上記に同じ(青森を除く) 〔但し、種別：鋼構造物 塗装・薬液注入につい ては札幌・東京・大阪・ 福岡〕	3月17日から 3月31日まで
一級管工事施工管理 技 術 検 定 学 科 試 験	短大卒以上の学歴で、学歴により 所定の実務経験年数を有する者。 二級管工事施工管理技士で、所定 の実務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による管工事 関係の一級技能検定合格者。	9月5日(日)	札幌・仙台・東京・ 新潟・名古屋・大阪・ 広島・高松・福岡・ 那覇	5月17日から 5月31日まで
一級管工事施工管理 技 術 検 定・実地試験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	12月5日(日)	札幌・東京・名古屋・ 大阪・福岡・那覇	10月22日から 11月4日まで
二級管工事施工管理 技 術 検 定 学 科・実地試験	学歴により所定の実務経験年数を 有する者。 職業能力開発促進法による管工事 関係の一級または二級の技能検定 合格者。	9月19日(日)	札幌・仙台・東京・ 新潟・名古屋・大阪・ 広島・高松・福岡・ 那覇	5月17日から 5月31日まで
一級造園施工管理 技 術 検 定 学 科 試 験	短大卒以上の学歴で、学歴により 所定の実務経験年数を有する者。 二級造園施工管理技士で、所定の 実務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による造園の 一級技能検定合格者。	9月5日(日)	札幌・仙台・東京・ 名古屋・大阪・広島・ 福岡・那覇	6月1日から 6月15日まで
一級造園施工管理 技 術 検 定・実地試験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	12月5日(日)	札幌・東京・大阪・ 福岡・那覇	10月22日から 11月4日まで
二級造園施工管理 技 術 検 定 学 科・実地試験	学歴により所定の実務経験年数を 有する者。 職業能力開発促進法による造園の一 級または二級の技能検定合格者。	9月19日(日)	札幌・仙台・東京・ 名古屋・大阪・広島・ 福岡・那覇	6月1日から 6月15日まで
土地区画整理技術者 試 験	学歴により所定の実務経験年数を 有する者。 不動産鑑定士及び同士補で所定の 実務経験を有する者。	9月5日(日)	東京・大阪	5月17日から 5月31日まで
土木施工技術者試験 管工事施工技術者試験 造園施工技術者試験	指定学科の卒業見込者	12月19日(日)	全国・50箇所	9月16日から 9月30日まで



## 平成11年度研修・講習

種 目	受 講 資 格	研修実施日 (平成11年)	研 修 地 (地区)	申込受付期間 (平成11年)
二級土木施工管理 技 術 研 修	学歴により所定の実務経験 年数を有する者。	6月上旬	沖縄・九州・中国・東北・北海道	3月17日から 3月31日まで
		6月中旬	沖縄・九州・中国・北陸・東北・ 北海道	
		6月下旬	九州・四国・中国・北陸・東北・ 北海道	
		7月上旬	沖縄・九州・四国・中国・近畿・ 北陸・東北・北海道	
		7月下旬	沖縄・九州・四国・中国・近畿・ 北陸・東北・北海道	
		8月下旬	近畿・中部	
		9月上旬	近畿・中部・関東	
		9月下旬	近畿・中部・関東	
		10月上旬	近畿・中部・関東・東北	
		10月中旬	近畿・中部・関東・東北	
		10月下旬	近畿・中部・関東・東北	
		11月上旬	近畿・中部・関東・東北	
11月中旬	中部・関東・東北			

種 目	受 講 資 格	研修実施日 (平成11年)	研 修 地 (地区)	申込受付期間 (平成11年)
二級管工事施工管理 技 術 研 修	満年齢45歳以上で学歴によ り所定の実務経験年数を有 する者。	9月上旬	近畿・関東・東北・北海道	5月17日から 5月31日まで
		9月下旬	九州・中国・近畿・中部・北陸・ 関東・東北	
		10月上旬	九州・中国・中部・関東・東北	
		10月中旬	九州・近畿・中部・北陸・関東・ 北海道	
		10月下旬	九州・中国・近畿・中部・関東・ 北海道	
		11月上旬	九州・中国・近畿・北陸・関東・ 東北・北海道	
		11月中旬	沖縄・九州・四国・近畿・中部・ 関東・北海道	
		11月下旬	九州・中国・近畿・中部・北陸・ 関東・東北	
		12月上旬	沖縄・九州・四国・近畿・中部・ 関東・東北	
		12月中旬	九州・近畿・中部・関東・東北	
1月中旬	九州・四国・近畿・中部・関東			
1月下旬	九州・近畿・関東			

種 目	講 習 対 象 者	講習実施日 (平成11年)	講 習 地 (地区)	申込受付期間 (平成11年)
監 理 技 術 者 講 習	監理技術者資格者証の交付 を受けようとする者	逐次実施	各都道府県庁所在地及び帯 広市並びに旭川市	随時申込受付

## 技術検定試験・研修等問合せ先

## 財団法人 全国建設研修センター

試験業務局 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30  
サウスヒル永田町ビル5・7・8F

- 土木施工管理技術検定〈一・二級学科及び実地試験〉(土木試験課)
- 二級土木施工管理技術研修(土木研修課)
- 土木施工技術者試験(施工試験課)
- 管工事施工技術者試験(施工試験課)
- 造園施工技術者試験(施工試験課) ☎03(3581)0138(代)
- 管工事施工管理技術検定〈一・二級学科及び実地試験〉(管工事試験課)
- 二級管工事施工管理技術研修(管工事研修課)
- 造園施工管理技術検定〈一・二級学科及び実地試験〉(造園試験課)
- 土地区画整理技術者試験(区画整理試験課) ☎03(3581)0139(代)
- 監理技術者講習(講習課) ☎03(3581)0847(代)

◎FAX情報 0120-025-789  
(FAX付き電話からおかけくだ  
さい。=無料サービス)

情報番号

- 11-実施日程
- 12-1・2級土木試験
- 13-1・2級管工事試験
- 14-1・2級造園試験
- 15-土地区画試験
- 16-施工技術者試験
- 17-2級土木研修
- 18-2級管工事研修
- 19-監理技術者講習
- 20-申込用紙販売先
- 21-情報一覧と操作方法

ホームページアドレス: <http://www.jctc-f.or.jp>



平成12年2月18日発行©

編 集 『国づくりと研修』編集小委員会  
東京都千代田区永田町1-11-32  
全国町村会館西館7階  
〒100-0014 TEL.03(3581)2464

発 行 財団法人全国建設研修センター  
東京都小平市喜平町2-1-2  
〒187-8540 TEL.042(321)1634

印 刷 株式会社 日誠



# 国づくりの研修